



こくご

たんぽぽ

文部科学省検定済教科書 38 光村 国語 213 小学校国語科用

こくご 二上 たんぽぽ

9784813803867

1924381000000

ISBN978-4-8138-0386-7
C4381 Y00000E



光村図書

光村図書

光村図書

保護者の皆様へ
この教科書は、これからの社会を生きる子どもたちが、言葉に出会う喜びや、人とつながる楽しさを実感しながら、確かな「言葉の力」を身につけることを願って編集したものです。ご家庭においても、子どもたちと語り合うきっかけとしてこの教科書をご活用ください。

- この教科書は、次のような配慮や工夫をしています。
- 全てのページについて、次の観点から、専門家による校閲を行っています。
カラーユニバーサルデザイン／特別支援教育／学習のユニバーサルデザイン／人権教育／外国人児童生徒等教育／防災教育
 - 持続可能な開発目標（SDGs）に関連するテーマを幅広く取り上げています。
 - 児童の学習負担を軽減するよう、本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています。
 - 読書紹介や学習用語の解説などの小さな文字には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
 - 環境に配慮した紙、植物油インキを使用しています。

UD
FONT



VEGETABLE
OIL INK

教科書中には、「学校の新しい生活様式」を踏まえ、学習活動を設定したり、その様子を挿絵・写真で示したりしています。児童に、活動の様子や留意点を分かりやすく伝えるために、マスクの着用等を省略していますが、実際の活動に際しては、適切な感染症の予防にご配慮ください。

この教科書では、学習の参考となる動画などの資料を小社ウェブサイトにて用意し、その箇所には二次元コードを示しています。機種やインターネット環境等によってはアクセスできないことがあります。また、通信料が発生する場合があります。読み取れない場合は、下記の URL をご参照ください。
https://m-manabi.jp/06s/kokugo2_jou/



この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。

二年
くみ

この 教科書を つかう みなさんへ

ここでは、みんなで 考えたい 大切な
ことを たしかめる ことが できます。
読みとる ときには、かならず、先生や
おうちの 方と いっしょに 行いましょう。

- タブレットなどを つかう ときは
- かんせんしょうたいさく
- ぼうさい
- SDGs(エスディー・ジーズ)
- 学校で つかう 日本語



こくご

二上 にじょう

たんぽぽ



「たんぽぽさんって、

まぶしいのね。

ひまわりさんの子^こで、

お日^ひさまの まごだから。」

と、ちようちようが きいた。

たんぽぽは、

うふんと わらった。



こくごの 学びを 見たそう	5
じゅんばんに ならぼう「話す・聞く」	14
絵を見て かこう「書く」	16
つづけて みよう	18



どんな おはなしかを たしかめて、音読しよう	19
ふきのとう くだう なおこ	19

図書館たんけん「本は ともだち」

33



思い出して 書こう	38
日記を 書こう	38



だいじな ことを おとさないように 聞こう	40
ともだちは どこかな	40
コラム 声の 出し方に 気を つけよう	44



じゅんじよに 気を つけて 読もう	45
たんぽぽの ちえ うえむらとしお	45
じゅんじよ「じょうほう」	55



ていねいに かんさつして、きろくしよう	56
かんさつ名人 なるう	56

いなばの 白うさぎ ながわりえこ「聞いて たのしもう」	62
同じ ぶぶんをもつ かん字「ことば」	65



お話を 読み、好きな ところを つたえよう	67
スイミー レオレオニさく たにかわしゅんたろうやく	67

メモを とる とき「じょうほう」	82
------------------	----

組み立てを 考えて 書き、知らせよう	84
こんな もの、見つけたよ	84

コラム 丸、点、かぎ	89
------------	----



あいての考えを引き出す しつもんをしよう	90
あったらいいな、こんなもの	90

本はともだち	96
--------	----

お気に入りの本をしようかいしよう	96
ミリーのすてきなぼうし きたむらさとし	101





雨のうた つるみ まさお 「読む」……………	114
ことばでみちあえない 「話す・聞く」……………	116
みの回りのものを読もう 「読む」……………	118
書いたら、見直そう 「書く」……………	120
読んで考えたことを 話そう……………	123
どうぶつ園のじゅうい うえたみや……………	136
ことばあそびをしよう 「ことば」……………	138
なかまのことばとかん字 「ことば」……………	136
きせつの ことば 春 夏……………	94
かん字の ひろば ① ② ③……………	81 122 140
かたかなのひろば……………	135

ひろく がくしゅうを広げよう

「たいせつ」のまとめ……………	142
いなばの 白うさぎ……………	146
本のせかいを広げよう……………	150
ひろがなとかたかな……………	153
これまでにならった かん字……………	154
この本でならう かん字……………	156
がくしゅうに用いることば……………	160
ことばのたからばこ……………	161
図をつかって考えよう……………	163

こくごの 学びを 見わたそう

はなしたり、きいたり、かいたり、よんだり
する とき、そこには、ことばが あります。
たくさん の ことばに であって、
つかえるように なる と いいですね。

さあ、

ことばに ついて
学んで いこう。



この 本では、つぎの しるしが
つかわれて います。



大切な ことを 書いて います。
たしかめましょう。



国語の がくしゅうで よく
つかわれる ことばです。



がくしゅうに かんけいの ある
ページを 書いて います。

文字や ことばの しるし



新しく がくしゅうする かん字。



読み方が 新しい かん字。



新しく がくしゅうする
かたかな。



この しるしがある ところには、
がくしゅうの たすけとなる
しりょうが あります。読みとる
ときには、かならず、先生や おうちの
方と いっしょに 行いましょう。

がくしゅうや せいかつに いかす



「いままで よんだ ことの ない ^{ほん}本にも
ちょうせん^きして みよう。」
「なにに 気^きをつけて はなせば
いいかが わかった。」

がくしゅうや せいかつの ^{なか}中で



「いろいろな ^{ぶん}文しょうを よみたい。」
「みんなの まえで、うまく
はなせない。」

ふりかえる



ふりかえろう

よむ



かく



はなす・きく



見^みとおしをもつ

といをもつ



もくひょう



といをもとう

「——と いう ことばを
つけた。」
「——の ことを かんがえた。」
「——を がんばった。」
「〇〇さんの おかげで
わかった。」



● みんなで よく かんがえる

「みんなは、どう おもう。」
「これで いいのかな。」



たいせつ

「——だ と いう ことが
わかった。」



● ひとりで じっくり かんがえる

「だいじな ことを
たしかめよう。」

「なにを するのかな。」
「どう やって
するのかな。」
「どうしてかな。」

二年生で学ぶこと



はなす・きく

ことばの じゅんびうんどう

じゅんばんに ならぼう 14

だいじな ことを おとさずに 聞く メモ

ともだちは どこかな 40

しつもんをして、あいての考えを引き出す しつもん

あったらいいな、こんなもの 90

あいてに正しくつたわるように 話す

ことばでみちあんない 116



二年生では、
どんな ことを
するのかな。

考えを出し合い、話をつなげる わだい

そうだんにのってください

組み立てを考えて、話す
楽しかったよ、二年生

かく



たのしく かこう

絵を見て かこう 16

日記に 書く こと

日記を 書く こと 38

かんさつした ことを 書く

かんさつ名人に なろう 56

組み立てを 考えて 書く 組み立て

こんな もの、見つけたよ 84

書いた文しようを見直す

書いたら、見直そう 120

じゅんじよが分かるように書く

おもちゃの作り方をせつめいしよう

組み立てを考えて、お話を書く

お話のさくしよになろう

書いたもののよいところを見つける

見たこと、かんじたこと

思いがったわるように書く

すてきなところをつたえよう

一年生で学んだこと

きめよう
あつめよう

すきな ことや、した ことから、
はなしたい ことを、くわしく おもい出す。

じゅんび
しよう

はなす じゅんじよを かんがえる。

はなそう・きこう

ききやすい 大ききの こえと
はやさで はなす。
おもった ことと その わけを いう。
もつと しりたい ことを きいたり、
おもった ことを いったり する。
ともだちの いった ことを
たしかめたり、わからない ことを
きいたり して、そうだんする。

つなげよう

はなしたり、きいたり、はなしあったり
して、気が ついた ことを つたえあう。

一年生の ときには、かいた
あとに、まちがいが ないか、
こえに 出して たしかめたよ。



きめよう
あつめよう

した ことや おもった こと、よく
見て 見つけた ことなどから、
しらせたい ことを かんがえる。

くみ立てよう

かく じゅんじよを かんがえる。
あった ことを かく ときは、
つぎのような まとまりに わける。
・なにが あったか
・くわしく おもい出した こと
・おもった こと

かこう

「は」「を」「へ」を 正しく つかって かく。
文しようを かいたら、字や ことばの
まちがいが ないか、よみかえす。

つなげよう

ともだちが かいた 文しようを よんで、
「いいな。」と おもった ことを つたえる。



せつめいする 文しよう

せつめいする 文しようを 読む

たんぽぽの ちえ 45

だいじなじようほうをよみとる

みの回りのものをよもう 118

読んで、じぶんの考えを
もつ ひっしや

どうぶつ園のじゆうい 123



だいじなことばや文を 見つける

紙コップ 花火の作り方

読んで、分かったことや思ったことを
つたえ合う

ロボット



おはなし

どんな おはなしかを

たしかめる

よつじようほうをよみとる

ふきのとう 19

お話の ようすを 思いうかべる

ばめん

スイミー 67

し 雨のうた 114

おはなし

とうじようじんぶつと
自分をくらべて、

かんそうをもつ

お手紙

じんぶつのようすを
思いうかべる

みきのたからもの

し

読んで、かんじた
ことをつたえ合う

スーホの白い馬

ねこのこ／

おとのはなびら／
はんたいことば

一年生で 学んだこと

せつめいする 文しよう

せつめいの
じゆんに 気を
つけて よむ。

5

おはなし・し

だれが
なにを いったか、
なにを したかを
たしかめながら、
よむ。

とらえよう

「やくそく」では、
あおむしや 木に
なった つもりで、
よんだね。



「ふきのとう」って、どんな
おはなしだろう。だれが
出て くるのかな。

せつめいする 文しよう

だいじな ことばを
見つけながら よむ。

おはなし・し

おはなしに 出て
くる 人が、どこで、
なにを したのか、
なにを いったのか
を、えも 見ながら
おもいうかべる。

ふかめよう

まとめよう

くらべて よんで、かんがえる。
すきな ところと その わけを
かんがえる。

ひろげよう

かんじた ことと その わけを、
ともだちと はなして、たのしむ。



二年生^{にねんせい}の こくご^{こくご}の がくしゅう^{がくしゅう}で、できる^{できる}ように なりたい^{なりたい} ことや、
たのしみ^{たのしみ}な こと^{こと}を かいて おこう^{おこう}。

こくご^{こくご}の がくしゅう^{がくしゅう}は、
あなた^{あなた}の まい日^{まいにち}の せい^{せい}かつ^{かつ}と
つなが^{つなが}って います^{います}。
はな^{はな}したり、き^きいたり、か^かいたり、
よ^よんだり する とき^{とき}の こと^{こと}を
おも^{おも}い出^だしましょう^{しよう}。

5

ともだちと たのしく
はなしあいたいな。



● 学校^{がっこう}の 中^{なか}で

本^{ほん}を たくさん
よみ^{よみ}たいな。



● いえや ちい^{ちい}き^きで

ことば

ことばの つかいかた

同じ ^{おな} ぶん ^{ぶん} を もつ かん ^{かん} 字 ^じ	65
かたかな ^{かたかな} の ひろ ^{ひろ} ば	135
ことばあそびを しよう	136
なかま ^{なかま} のことばと かん ^{かん} 字 ^じ	138
かん ^{かん} 字 ^じ の ひろ ^{ひろ} ば	
① う ^う ③	

げ 下

- 主語^{しゅご}と述語^{じゆご}に
気^きをつけよう
- かん^{かん}字^じの読み方^{よみかた}
- にたい^{にたい}みのことば^{ことば}は
んたい^{んたい}のい^いみの
ことば
- かたかな^{かたかな}で書く
ことば
- ことばを^{たの}楽しむ^{しもう}
- ようす^{ようす}をあらわす
ことば
- カン^だジ^だーはかせの
大^{だい}は^はつめ^めい
- かん^{かん}字^じの広^{ひろ}場^ば
- ④ ・ ⑤

◆ うけ^{うけ}つ^つが^がれ^れて きた
ことば

いな^{いな}ば^ばの 白^{しろ}う^うさ^さぎ^ぎ 62
き^きせ^せつ^つの こと^{こと}ば
春^{はる}・夏^{なつ}

げ 下

- せ^せかい^{かい}の^{いち}話^{はなし}
- き^きせ^せつ^つの^{あき}こと^{こと}ば
秋^{あき}・冬^{ふゆ}

じょうほう

くわんてい



じゅん ^{じゅん} じょ	55
メモ ^{メモ} を とる とき	82
図書 ^{としよかん} 館 ^{かん} たんけん	33
おき ^{おき} に ^い り ^い の ^{ほん} 本 ^{ほん} を し ^し よう ^{よう} かい ^{かい} し ^し よう ^{よう}	96
ミ ^ミ リ ^リ ーの すて ^{すて} きな ^{きな} ぼう ^{ぼう} し	101

一年生^{いちねんせい}で 学^{まな}んだ こと

ことばの つかいかた

- 口^{くち}の あけ^{あけ}かた
- 文^{もじ}字^じ（ひ^ひらが^がな、か^かたかな、かん^{かん}字^じ）
- 「^て」が^{つく} 文^{もじ}字^じの あ^{ある} こと^{こと}ば
- 「^つ」の あ^{ある} こと^{こと}ば
- の^{おん}ば^ばす 音^{おん}の あ^{ある} こと^{こと}ば
- 「^や」「^ゆ」「^よ」の あ^{ある} こと^{こと}ば
- 「^は」「^を」「^へ」の つ^{つか}い^{いか}か^かた
- か^かぎ^ぎ（^じ）、ま^まる^る（^こ）の つ^{つか}い^{いか}か^かた
- も^もの^のの^な名^なま^まえ^え（も^もの^のを^をあら^{あら}わ^わす^すこと^{こと}ば）

う^うけ^けつ^つが^がれ^れて きた こと^{こと}ば

- む^むかし^しば^ばな^なしを^を き^きいて た^たの^のし^しむ
- こと^{こと}ばあ^あそ^そび

どくしよ

- 学^{がっこう}校^{こう}とし^{とし}よ^よか^かん^んの^の き^きまり
- よ^よん^んだ 本^{ほん}を し^しよう^{よう}かい^{かい}する



ことばの じゅんびうごう

じゅんばんんに ならぼう

みんなで こえを
かけあって、
じゅんばんに
ならびましょう。



1

先生の はなしを よく
きこう。

先生の まえに、
「たんじょう日」が 早い 人から
じゅんばんに ならびましょう。



2

こえを かけあって、
ならぼう。

わたしは、
五月生まれだから、
この あたりかな。

わたしも、
二月生まれだよ。
まついさんは、
なん日生まれなの。



3

正しい じゅんばんに
ならべたか、たしかめよう。



もっと たのしもう

○あさ、おきた じかんが
早い（おそい） じゅん
ならび。

○名まえの
あいうえおじゅんに
ならび。

どんな ふうに こえを
かけあいしましたか。





きょうの
できごとで、

ここにのこったことを、
ひとことでかいてみましょう。

● したこと

● 見つけたもの

しがつじゅうごにち
四月十五日（月）
けんばんハーモニカの
れんしゅうをした。

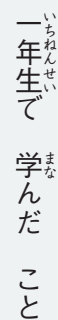
5



よ
読む

どんな おはなしかを
たしかめて、音読しよう

これまでの
がくしゅう



(おはなし・し)

まな
学んだこと
し……

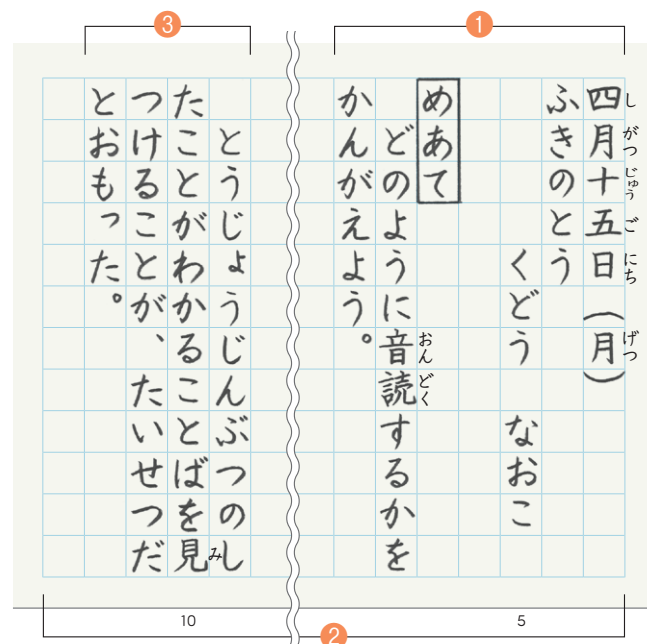


ふきのとう

竹^{たけ}やぶの そばで、ふきのとうが、
はるに なるのを まって います。
この おはなしには、だれが 出^でて
きて、どんな ことを するのでしょう。

ノートの
かきかた

ノートにかくことや、**気**をつけるとよいことを、たしかめましょう。



① はじめに、日づけ、
だいめい、さくしやの
なまえ、その日の
めあてを
かく。

② ます目のなか
ていねいにかく。

3 その 日の ひ
がくしゅうの おわりに、
わかった ことや、
かんじた ことを かく。

10

5

ふきのとう

くどう なおこ さく
ひらおか ひとみ 絵え

よが あけました。

あさの ひかりを あびて、
竹^{たけ}やぶの 竹^{たけ}の はっぱが、

「さむかったね。」

「うん、さむかったね。」

と ささやいて います。

雪^{ゆき}が まだ すこし のこって、

あたりは しんと して います。

○ 雪^{ゆき}
● 音^{おん}読^{どく}
○ 読^よむ

どこかで、小さな声がしました。

「よいしょ、よいしょ。おもたいな。」

竹やぶのそばのふきのとうです。

雪の下に あたまを出して、

雪をどけようと、ふんばって いる ところです。

「よいしょ、よいしょ。そとが 見たいな。」

「ごめんね。」

と、雪が 言いました。

「わたしも、早く とけて

水になり、とおくへ 行って

あそびたいけど。」

と、上を見上げます。

「竹やぶの かげに なって、

お日さまが あたらない。」

と ざんねんそうです。

「すまない。」

と、竹^{たけ}やぶが 言^いいました。

「わたしたちも、ゆれて おどりたい。」

ゆれて おどれば、雪^{ゆき}に 日^ひが

あたる。」

と、上^{うえ}を 見^みあげます。

「でも、はるかぜが まだ こない。」

はるかぜが こないと、おどれない。」

と ざんねんそうです。

空^{そら}の 上^{うえ}で、お日^ひさまが わらいました。

「おや、はるかぜが ねぼうして

いるな。竹^{たけ}やぶも 雪^{ゆき}も

ふきのとうも、みんな こまって

いるな。」

そこで、南^{みなみ}を おいて 言^いいました。

「おうい、はるかぜ。おきなさい。」

5

10

5

お日^ひさまに おこされて、
はるかぜは、^{おお}大きな あくび。

それから、せのびして 言^いいました。

「や、お日^ひさま。や、みんな。おまちどお。」

はるかぜは、おね いっぱいに いきを すい、
ふうっと いきを はきました。

はるかぜに ふかれて、

竹^{たけ}やぶが、ゆれる ゆれる、おどる。

雪^{ゆき}が、とける とける、水^{みづ}に なる。

ふきのとうが、ふんばる、せが のびる。

ふかれて、

ゆれて、

とけて、

ふんばって、

—— もっこり。

5

10

5

ふきのとうが、かおを
出^だしました。
「こんにちは。」

もう、

すっかりはるです。

5

くどうなおこさんは、「こぶたはなこさん
のおべんとう」「かぜのこもりうた」なども
かいています。



どうが

見とおしを もとう



といを もとう

おはなしを 読んで、あなたが「おもしろいな。」とおもったのは、どこですか。



もくひよう

だれが、どう したのかを たしかめて、おはなしの ようすが よく つたわるように、音読しよう。

・いつ、どこで、だれが、どう したかがわかる ことばを 見つける。
・とうじょうじんぶつの した ことや、言っ た ことを たしかめる。

とうじょう
じんぶつ

おはなしの 中に
出てくる 人の
こと。
160
ページ

とらえよう

- どんな おはなしかが わかる ことばを見つけないが、音読しましょう。①
- ・いつ、どこでの おはなしですか。
- ・どんな とうじょうじんぶつが 出てきますか。
- ・だれが、どこで、なにを して いますか。

5

ふかめよう

- 「ふきのとう」が かおを 出す ことができたのは、どうしてでしょうか。
- どのように 読むか、かんがえましょう。②
- ・「よいしょ、よいしょ。おもたいな。」
- ・「おうい、はるかぜ。おきなさい。」

5

まとめよう

- おもしろいとおもった ところを、ようすが つたわるように 音読しましょう。
- ともだちの 音読を きいて、「いいな。」とおもった ことを つたえましょう。③

ひろげよう



ふりかえろう

しる どの ことばに 気を つけて、音読しましたか。
読む だれが、どう したか、なにを 言っ たかを たしかめられましたか。
つなぐ これから 音読する とき、どんな ことに 気を つけたいですか。

② 音読で 気を つける こと

- ようすを おもいうかべて、読みかたを かんがえましょう。
- しせいや、からだの むき
- □の あけかた
- 声の 大きさ
- 読む はやさ

③ つたえる ときの れい

「さむかったね。」
「うん、さむかったね。」の
ところを、とても
小さな 声で 音読して
いたから、ほんとうに
さむそうだったよ。





たいせつ

どんな おはなしかを
たしかめる

- どうじようじんぶつを たしかめる。
- つぎのような ことばを みつけろ。
- ・ した ことや、言った ことが
わかる ことば
- ・ 「いつ」や「どこ」が わかる ことば
- 「あさ」「雪の 下」など



いかそう

とうじようじんぶつや、いつ、
どこでの おはなしかを
たしかめながら、おはなしかを
読みましょう。

10

5



この本、読もう

さくららら



はるに なった ことを
かんじる 本です。だれが、
なにを して いるかを
たしかめながら、読みましょう。

5

はるにあえたよ



おねぼうさんは
だあれ？



はるをさがしに



読 読 読 読 読 読 読 読
雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪

声 声 声 声 声 声 声 声
言 言 言 言 言 言 言 言

行 行 行 行 行 行 行 行
南 南 南 南 南 南 南 南



本はともだち

図書館たんけん

図書館の本は、みんなが
さがしやすいように
なまわけされて、ならんで
います。どのように
わけられて いるか、しらべて
みましょう。



しぜんの たなに、
こん虫の本が
ならんで
いるよ。

どんな 本が
ならんで
いるのかな。

4月の おすすめ

どの 本を
読もうかな。



図書館
・ こん虫

An illustration of a woman with short brown hair, wearing a blue long-sleeved shirt and a light grey skirt, standing behind a wooden counter in a library. She is holding a green book with white text. On the counter, there is a grey laptop and a stack of three books (red, orange, and green). Behind her are shelves filled with various books. To the right, a man with glasses, wearing a green shirt and brown pants, stands looking at her. The background is a plain light yellow wall.

おりがみの
かた
おり方の
ほん
本は
どこかな。

読よみたい
本ほんを
さがしましょう。

えほん
絵本や
ものがたり、
しぜんに

ついでの本^{ほん}など、しゅるいに

よって、たながわかれて
います。

○本の^{ほん}ならべ方^{かた}をたしかめる

ふつう、本のだいめいや、

さくしやの
名^なまえの

あいいうえおじゆんにならんでいます。

みましよう。

●「うらしまたろう」の絵本 えほん

● ピーマンの
そだて方かた

わかる
本ほん

● 虫むしの 名なまえが わかる 本ほん

知りたいことがある

ときは、なにを
知^しりたいのかを

はつきりさせて、
本ほんを

さがしましょう。









凶書館

書
書書書書書書書

方
方
方
方
方

おり方 かた

繪
繪
繪
繪
繪
繪
繪
繪
繪
繪
繪本

知
知
知
知
知
知
知
知
知る

読んだ
本は、
ノートや

カードに書いておきましょう。

しがつはつか 四月二十日	しがらうごにち 四月十五日	よ 読んだ日
むしのかお	はるねこ	だいめい
しんかいたかし	かんのゆうこ	か 書いた人 ひと
● ◎	◎	

おもしろかった
しるし

●書^か
く

おり方 かた

○ **繪** え
本

○知^し
る

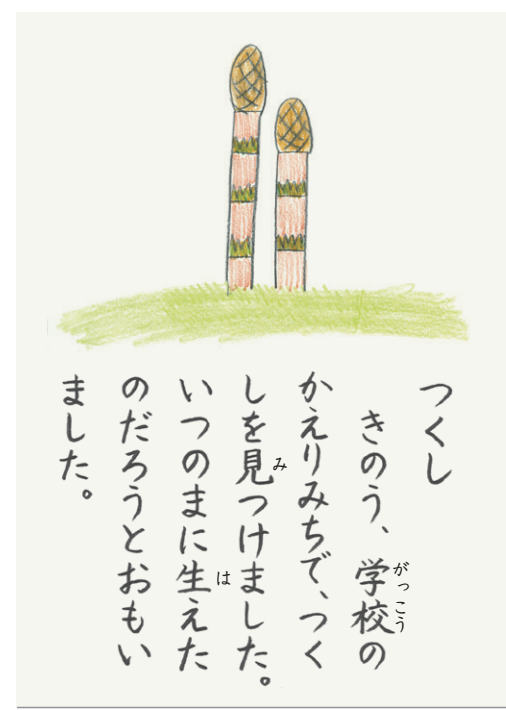
みんながつかう
 ばしですよ。入る
 まえと出た
 あとには、手を
 あらいましよう。

きせつの
ことば 1



春が いっぱい

どんなものを見たときに、
「春だなあ」と感じますか。
カードに書きましょう。



みんなの書いたカードをまとめて、
ひょうしをつけてもいいですね。



生える 春

はなが さいた まど・みちお
はなが さいた
はなが さいた
はひふへ ほほほ
はなが さいて
みない ひと いなひ
はなが さいた
はなが さいた
ほへふひ ははは
はなが さいて
おこる ひと いなひ



春 春春春春春春春 春

日記を書こう

あなたは、きのう、どんなことをしましたか。
 どん^{おも}なことを、見^みたりきいたりしましたか。
 思^{おも}い出^だして、日^に記^きに書^かきましょう。



○ **思** おも
い
出
す

日記

日曜 日

ひき肉

四月二十一日（日曜日）はれ
夕方、おかあさんが、コロツケをつくって
いました。ぼくが見ていたら、おかあさんが、
「いっしょにつくろうか」。

と言ったので、
 ぼくもおてつだいをすること
 にしました。

ぼくは、じゃがいもと、ひき肉にくと、玉ねぎたまを
まぜたものをまるめました。きれいなかたち
にするのがむずかしかったけれど、だんだん
じょうずにできるようになりました。

タゴゆうごはんのまえに、できたてをあじみしました。ころもがかりつとしていて、おいしかったです。

書^かいたら、いえの
人^{ひと}や ともだちに
読^よんで
もらって、「ようすが
よく わかるな。」と
思^{おも}う
ところを おしえて
もらいましょう。



たいせつ

日記に書くこと

○ した
こと

○ 見た^みこと、見^みつけたもの

○ 言ったこと、聞いたこと

○ 思ったこと



いかそう

人に つたえたい ことや、
おぼえて おきたい ことを、
書いて おきましょう。

思
思思思思思思思
おもいだす

記
記
記
記
記
記
記
日記 につき

曜
曜
曜
曜
曜
曜
曜
日曜日

にちようび

肉 肉肉肉肉肉
ひき肉 にく

した ことを、
じゅんばんに 書^かこう。
たばた ときの 気^きもちも、
書^かいて おこう。



だいじな ことを おとさないように 聞こう

ともだちは どこかな

にしのさんが、ゆかさんを
さがして います。

みなさんも おなじように、

絵の 中の 人を

さがしあいましょう。

5



といを もとう

おんせい
音声を 聞いて、絵の 中から

ゆかさんを さがしましょう。どんな

ことばが 手がかりに なりそうですか。

159
ページ



● たしかめよう

「一年生で 学んだ こと」…… 8 ページ

● 見とおしを もとう

きめよう
あつめよう

① 絵を 見て 話す。

② 話を 聞く ときに
だいじな ことを
かんがえる。



じゅんびしよう

③ グループで さがしあう。

はな
話そう
聞こう

④ メモを 見せあう。

つなげよう

● ふりかえろう





もくひょう

て 手 が か り に な る こ と を よ く 聞 き、
え の 中 か ら、 さ が し て い る こ ども を
み 見 つ け よ う。

- 人や ものの ようすを あらわす
- ことばに 気を つける。
- 聞く ときに だいじな ことは なにかを かんがえる。

① 絵を見て話そう。

ゆうえんちには、どんな人ひとがいますか。その人ひとのことがわかるように、ともだちに話はなしましょう。

2 話を聞^きくときに
だいじなことをかんがえよう。

▼ **どんな** **こと**に **気**を **つけ**て
話を **聞**くと、 **絵**の **中**から
人が **さ**が **せ**るで **し**ようか。

ほかのひと
まちがえない ためには、
なにが わかると いいかな。



きて いる ふくが
わかと いいのかな。

○ **話** はな
す

○聞く

音声

メモ

聞いたことや
かんがえた
ことなどを、
書きとめること。

160 ページ



ふりかえろう

知る し 人を さがす ときに だいじなのは、どんな ことばでしたか。

話す・聞く はな ぎ だいじな ことを おとさない ために、なにに 気を つけましたか。

つなぐ つな これから、話を はなし 聞く とき、どんな ことに 気を つけたいですか。

③ グループでさがしあおう。

ともだちに 絵の 中から 子どもを えらんで、
話を しましょう。

聞く人は、だいじなことを
メモしながら聞きましょう。

赤水玉

④ メモを見せあおう。

メモしたことを、

ともだちとくればましよう。

話
話話話話話話話話話
話す はな

聞
聞聞聞聞聞聞聞聞聞
聞^き
く



たいせつ

だいじなことを
おとさずに聞く

き 聞いて おくと よい ことは
なにかを かんがえながら 聞

○ 聞いた き ことの なか 中から、だいじだと思 おも う ことをメモする。



いかそう

おくと、あとで話を聞くときに、メモをしてたしかめられます。



よ読む

じゅんじよに 気を つけて
読もう

これまでの
がくしゅう



一年生で 学んだ こと
(せつめいする 文しよう) ……



10 ページ

たんぽぽの ちえ

『じょうほう』じゅんじよ

上の しゃしんのように、たんぽぽは、
いろいろな すがたに なりますね。
たんぽぽには、いったい、どのような
ちえが あるのでしょうか。



声の 出し方に 気を つけよう

話す はやさ と 声の 大きさ

だいじな ところは、あいてが
聞きやすいように、ゆっくりと、
大きめの 声で 話しましょう。

▼①②に こたえる とき、

それぞれ、どの ことばを、
ゆっくりと、大きめに 言いますか。

①どこで あそぼうか。

②なんじから あそぼうか。

①どこから、ひかりこうえんで
あそぼうよ。



5

音の たかさ

ひらがなで 書くと おなじでも、
音の たかさの ちがいで、べつの
ことばになる ものが あります。

▼「あめ」を、絵に

5

あうように、 声に

出して 言って

みましょう。どんな

ちがいが ありますか。



聞く ときは、話す 人の 声の
出し方にも 気を つけましょう。

10

たんぽぽのちえ

うえむらとしお ぶん
せとあきら 絵

春^{はる}に になると、

たんぽぽの

黄色^{きいろ}い きれいな

花^{はな}が さきます。



黄色^{きいろ}い

黒^{くろ}

二、三日^{にさんいち} たつと、
その花^{はな}は しぼんで、
だんだん 黒^{くろ}っぽい
色^{いろ}に かわって いきます。

そうして、たんぽぽの 花^{はな}の じくは、
ぐったりと じめんに たおれて しまします。
けれども、たんぽぽは、かれて
しまったのでは ありません。花^{はな}と じくを
しずかに 休^{やす}ませて、たねに、たくさん
えいようを おくって いるのです。
こうして、たんぽぽは、たねを どん
太^{ふと}らせるのです。

やがて、花^{はな}は すっかり かれて、その
あとに、白^{しろ}い わた毛^げが できて きます。



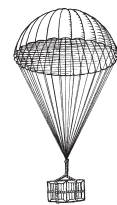
太^{ふと}らせる
わた毛^げ

10

この わた毛^げの 一つ一つは、ひろがると、
ちようど らっかさんのようになりす。
たんぽぽは、この わた毛^げに ついて いる
たねを、ふわふわと とばすのです。

この ころになると、それまで たおれて
いた 花^{はな}の じくが、また おき上^あがります。
そうして、せのびを

するように、
ぐんぐん のびて
いきます。



らっかさん
パラシュートとも
いう。

10

5

なぜ、こんな ことを するのでしょう。それは、
 せいを 高く^{たか} する ほうが、わた毛^げに 風^{かぜ}が よく
 あたって、たねを とおくまで とばす ことが
 できるからです。

よく 晴^はれて、風^{かぜ}の ある 日^ひには、わた毛^げの
 らっかさんは、いっばいに ひらいて、とおくまで
 とんで いきます。



5

○晴^はれる

○風^{かぜ}

○高^{たか}い

でも、しめり気^けの 多^{おほ}い 日^ひや、雨^{あめ}ふりの
 日^ひには、わた毛^げの らっかさんは、すぼんで
 しまいます。それは、わた毛^げが しめって、
 おもく になると、たねを とおくまで
 とばす ことが できないからです。

このように、たんぽぽは、いろいろな
 ちえを はたらかせて います。そうして、
 あちらこちらに たねを ちらして、

新^{あたら}しい なかまを ふやして いくのです。

5



しめり気^け
 •

○多^{おほ}い

○新^{あたら}しい

うえむらとしおさんは、生きものの くもや、
 たんぽぽを けんきゅうして いた 人^{ひと}です。



見とおしを もとう



といを もとう

「たんぽぽの ちえ」を 読んで、あなたが はじめて 知ったことや、「すごいな」と 思ったことは、 ありますか。

考える
・行
ページ



もくひよう

じゅんじよに 気をつけて、たんぽぽの ちえを たしかめ、思ったことを 書こう。

・じゅんじよが わかる ことばを 見つける。
・どんな じゅんじよで せつめいして いるのかを たしかめながら 読む。

とらえよう

○たんぽぽの ちえが いくつ あるかを 考えながら、音読しましょう。

○たんぽぽは、いつ、どんな ちえを はたらかせて いますか。たんぽぽが かわって いく じゅんじよに 気を つけて、 読みましょう。

1

ふかめよう

○「——のです。」「——からです。」に 気を つけて、たんぽぽの ちえに、どんな わけがあるかを たしかめましょう。

まとめよう

○かしこいと思う たんぽぽの ちえを、 わけと いっしょに 書きぬきましょう。 あなたが 思った ことも 書きましょう。

2

ひろげよう

○書いた ものを 読みあって、じぶんと おなじだと 思った ことを つたえましょう。



ふりかえろう

知る 読む つなぐ
どんな ことばを 手がかりに して、じゅんじよを たしかめましたか。
たんぽぽの ちえは、どんな じゅんじよで 書かれて いましたか。
なにかを せつめいする ときに、どんな ことばを つかいたいですか。

1 ことば

- つぎの ことばを たしかめましょう。
- ①「春に になると、」(46ページ1行目)
 - ②「二、三日 たつと、」(47ページ1行目)
 - ③「やがて、」(48ページ9行目)
 - ④「この ころに になると、」(49ページ5行目)
 - ⑤「よく 晴れて、風の ある 日には、」

2 書き方の れい

⑥「しめり気の 多い 日や、雨ふりの 日には、」(51ページ1行目)

ちえ

たんぽぽの花のじくは、ぐったりとじめんにたおれてしまします。

わけ

花とじくをしずかに休ませて、たねに、たくさんのえいようをおくっているのです。

思ったこと

たんぽぽが、花とじくを休ませていることを、はじめて知りました。



ていねいに かんさつして、きろくしよう

かんさつ名人になろう

かって いる 生きものや、
そだてて いる しよくぶつを、
ていねいに かんさつして、
きろくしましょう。そして、
ともだちと 読みあいましよう。



どんな 生きものや しよくぶつを、
かったり そだてたり して いますか。
うれしかった ことは ありましたか。



かんさつ名人になって、生きものや
しよくぶつの ようすを きろくする
文しょうを 書こう。

① かんさつする ものを きめて、 かんさつしよう。

よく 見たり、
さわったり して、
ようすや うごきを
ていねいに かんさつし、
見つけた ことや
気づいた ことを
メモしましょう。

ミニトマト
五月十七日 晴れ
・黄色い花がさいた。
・花びらが、そりかえっていた。
・花の形は、ほしみたいだった。

せいかつの
じかんに そだてて
いる、ミニトマトを
かんさつしたよ。



● たしかめよう

「一年生で 学んだ こと」..... 9 ページ

● 見とおしを もとう

① きめよう
あつめよう
かんさつする ものを
きめて、かんさつする。

② くみ立て
よう
書く ことと
じゅんじよを 考える。

③ 書こう
かんさつした ことを
きろくする 文しょうを
書く。

④ つなげよう
文しょうを 読みあう。

● ふりかえろう

- ・ ようすや うごきを あらわす
ことばを つかう。
- ・ ていねいに かんさつして、
きろくしたい ことを 見つける。

② かんさつする ときは

- つぎの ことを メモしましょう。
- ・ 大きさ ・ 色 ・ 形 ・ かず
 - ・ におい ・ さわった かんじ

ほかに、だいじだと 思った
ことは ありますか。

・ 名人

○ 形

② 書く ことと じゅんじよを 考えよう。

かんさつして 見つけた ことや 気づいた ことを、
メモを 見ながら、ともだちと 話しましょう。

そして、なにを、どんな じゅんじよで 書くかを
考えましょう。

はじめに、なにを
かんさつしたかを
書こうかな。

うちで かつて いる
かたつむりが、体を
すく のびしたんだ。

どのくらいの
長さに のびたの。

かんさつした 日も
書いて おくと
いいんじゃないかな。

③ かんさつした ことを きろくする 文しょうを 書こう。

かんさつした ことが、読む 人にも
よく わかるように 書きましょう。



五月十七日(金) 晴れ

ミニトマトに黄色い花がさき
ました。

花は、ほしみたいな形にひら

いていて、花びらはどれもそり
かえっています。花びらをそつ

とさわってみたら、さらさらし
ていました。

○書く ことと じゅんじよを 考える ときは

- ・見つけた ことや 気づいた
ことの 中から、書きたい
ことを えらぶ。
- ・ともだちに、わからない
ことを たずねて もらうと、
書いて おくと よい ことが
見つかる ことがある。
- ・きろくする 文しょうには、
はじめに、いつ、なにを
かんさつしたかを 書く。
つぎに、かんさつして
わかった ことを、くわしく
書く。

○長さ ○体

○かんさつした ことを 書く ときは

- ・日づけ、曜日、天気を 書く。
- ・なにを かんさつしたかを 書く。
- ・「花は」「花びらは」など、
なんの ことが
わかるように 書く。
- ・「みたいだ」「ようだ」などを
つけて、ようすを くわしく
書く。
- ・どう やって
かんさつしたかを 書く。



ふりかえろう

知る し
 書く か
 つなぐ
 ようすや うごきを くわしく 書く か とき、どんな ことはを つかいましたか。
 どんな ことを かんさつして メモしましたか。
 ともだちの 文 ぶん しょうを 読 よ んで、まねしたいと 思 おも った ところは どこですか。

体	形
体 体 体 体 体 体 体	形 形 形 形 形 形 形
からだ	かたち
近	長
近 近 近 近 近 近 近	長 長 長 長 長 長 長
ちか	なが
近づける	長さ
同	同
同 同 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同 同 同
おな	おなじ

かんさつした　ことが　わかるように
書^かけて　いるか、　読^よみかえしましょう。

④ 文^{ぶん}しょうを 読^よみあおう。

「じょうずに書いてあるな。」「よくかんさつしてあるな。」とおもったところを、ともだちに つたえましょう。



たいせつ

かんさつしたことを書く

○ 見た^みり、さわったり、においをかいだり
して、ていねいに かんさつする。

○ ようすや うごきを、くわしく 書^かく。

いきなり いろいろなものをかんさつしましょう。

ろくがつなのか
六月七日（金）くもり
ミニトマトのみが大きくなっ
てきました。
いちばん大きなみは、ビー玉
ぐらいです。色は、みどり色で
す。さわってみると、つるつる
していました。みの先の方には
かれた花がついていることに気
がきました。かおを近づけた
ら、赤イトマトと同じにおいが
しました。

つづけて きろくして
いくと、かわって いく
ようすが わかるよ。



▲ ビー玉 ○ 同おなじ ○ 近ちかづける ・方ほう

⑤ かんさつした ことを 書く
ときの ことは

- が わかりました。
- に 気が つきました。
- を 見つけました。



聞いて たのしもう

先生に 読んで もらって、
お話を たのしみましょう。

どうが



いなばの 白うさぎ

ながわりえこ 文

いとう ひでお 絵



▼だれが 出で きましたか。
どんな ことが おこりましたか。
みんなで 話しましょう。

146 ページ





ことば

おなじぶぶんをもつかん字

かん字には、おなじぶぶんをもつものがあります。
絵の中のかん字を見て、
おなじぶぶんをさがしましょう。





よ読む

お話を読み、
すきなところをつたえよう

同じぶぶんに気をつけて、
 かん字を、読んだり書いたりしましょう。
 今、おかあさんは、会社にいます。
 この小刀は、よく切れる。
 町内の店で、百円のおかしを
 かう。
 姉と妹が、なかよくあそぶ。
 太い線で絵をかく。
 汽車のまどから、海が見える。
 同じぶぶんをもつかん字を、ほかにも
 さがしてみましょう。

「これまでにならったかん字」
 「この本でならうかん字」
 156ページ 154ページ

今 今 今 今 今
 会 会 会 会 会
 社 社 社 社 社
 刀 刀 刀
 切 切 切 切
 内 内 内
 店 店 店 店 店
 姉 姉 姉 姉 姉
 妹 妹 妹 妹 妹
 線 線 線 線 線
 汽 汽 汽 汽 汽
 海 海 海 海 海

今 今 今 今 今
 会 会 会 会 会
 社 社 社 社 社
 刀 刀 刀
 切 切 切 切
 内 内 内
 店 店 店 店 店
 姉 姉 姉 姉 姉
 妹 妹 妹 妹 妹
 線 線 線 線 線
 汽 汽 汽 汽 汽
 海 海 海 海 海

今 今 今 今 今
 会 会 会 会 会
 社 社 社 社 社
 刀 刀 刀
 切 切 切 切
 内 内 内
 店 店 店 店 店
 姉 姉 姉 姉 姉
 妹 妹 妹 妹 妹
 線 線 線 線 線
 汽 汽 汽 汽 汽
 海 海 海 海 海

これまでの
がくしゅう



どんな おはなしかを たしかめる
(ふきのとう)

32ページ

スイミー

魚の「スイミー」は、
 きょうだいたちと たのしく くらして
 いました。ところが、ある 日、
 たいへんな ことが おこります。

スイミー

レオリレオニ

さく・絵え

たにかわしゅんたろう やく

広い^{ひろ} 海^{うみ}の どこかに、 小さな^{ちい} 魚^{さかな}の

きようだいたちが、たのしくくらしで いた。

みんな 赤い^{あか}のに、一匹^{いっ}きだけは、からす貝^{がい}よりも

まっ黒^{くろ}。およぐのは、だれよりも はやかった。

名前^{なまえ}は スイミー。



5

名前^{なまえ}

広^{ひろ}

魚^{さかな}

ある日、

おそろしい まぐろが、

おなかを すかせて、

すごい はやさで

ミサイルみたいに

つつこんで きた。

一口で、まぐろは、

小さな 赤い

魚たちを、一ぴき

のこらずのみこんだ。

にげたのは

スイミーだけ。

スイミーは

およいだ、くらい 海の

そこを。こわかった。

さびしかった。

とても かなしかった。



けれど、海には、すばらしいものが
いっぱい あった。おもしろいものを
見る たびに、スイミーは、だんだん
元気を とりもどした。

にじ色の

ゼリーのよう な くらげ。

水中ブルドーザーみたいな

いせえび。

見た ことも ない

魚たち。 見えない 糸で

ひっぱられて いる。

ドロップみたいな 岩から

生えて いる、こんぶや

わかめの 林。

うなぎ。 かおを 見る

ころには、しっぽを わすれて

いるほど 長い。

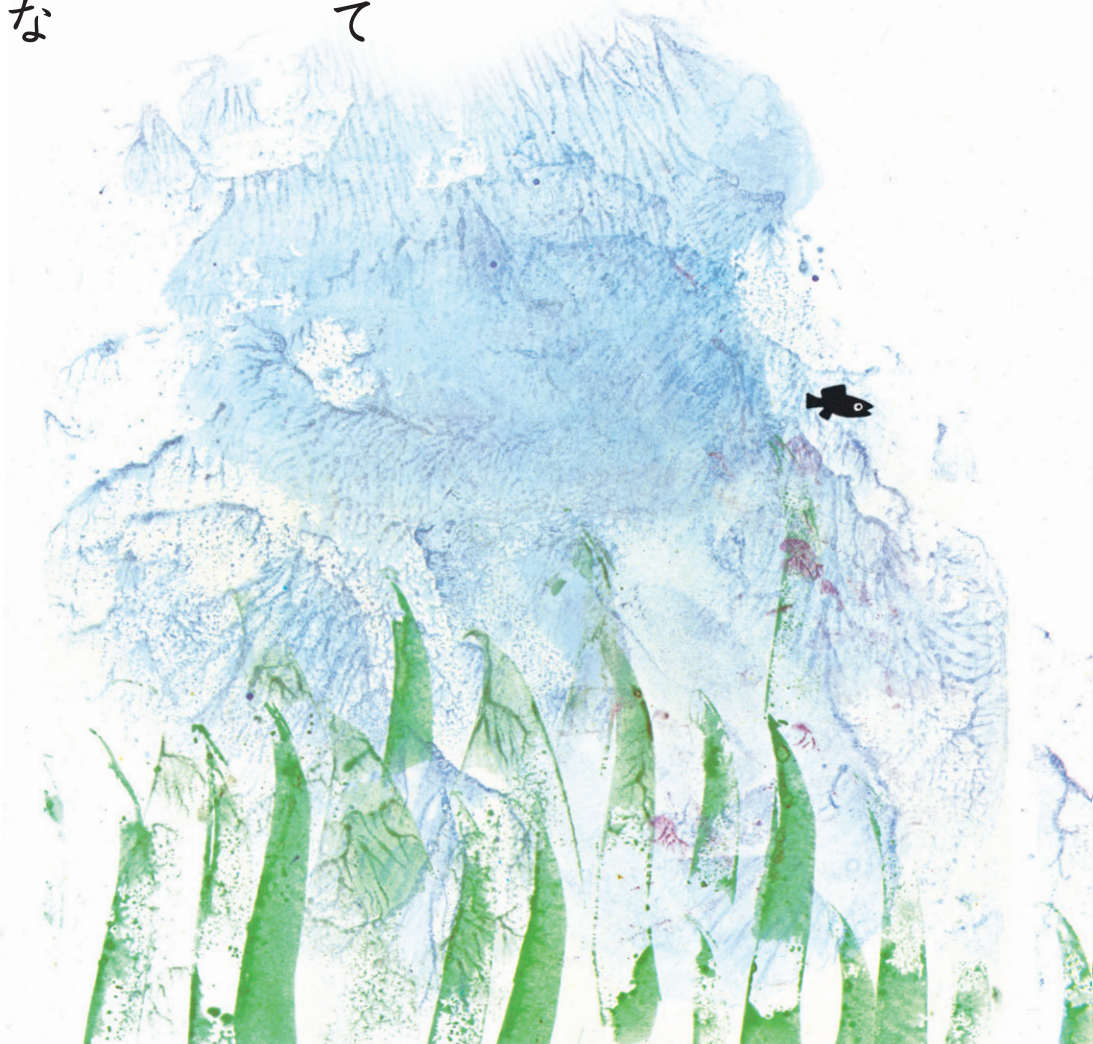
そして、 風に ゆれる

もも色の やしの 木みたいな

いそぎんちゃく。



ブルドーザー
元気
水中
岩



そのとき、岩かげに
スイミーは 見つけた、
スイミーのと そっくりの、



小さな 魚の きょうだいたちを。

スイミーは 言った。

「出で こいよ。みんなであそぼう。

おもしろい ものが いっぱいだよ。」

小さな 赤い 魚たちは、こたえた。

「だめだよ。大きな 魚に 食べられて しまうよ。」

「だけど、いつまでも そくに じっと して いる

わけには いかないよ。なんとか 考えなくちゃ。」

スイミーは 考えた。いろいろ 考えた。

うんと 考えた。

それから、とつぜん、
スイミーは さげんだ。

「そうだ。みんな

いっしょに およぐんだ。

海で いちばん 大きな

魚の ふりを して。」

スイミーは 教えた。けっして、

はなればなれに ならない こと。

みんな、もちばを まもる こと。

みんなが、一ぴきの 大きな

魚みたいに およげるように

なった とき、

スイミーは 言った。

「ぼくが、目になろう。」

あさの つめたい 水の中を、

ひるの かがやく 光の中を、

みんなは およぎ、

大きな 魚を おい出した。

レオニレオニさんは、「せかい いち おおきな
うち」あいうえおの きなども 書いて います。



光

教える

見とおしを もとう



といを もとう

この お話を 読んで、あなたが「すきだな。」と
思ったのは、どこですか。それは、どうしてですか。

ばめん

160 ページ



もくひょう

お話の ようすを 思いうかべて、すきな
ばめんに ついて つたえあおう。

- ・ようすを あらわす ことばに
気をつける。
- ・とうじょうじんぶつや、ばめんの
ようすを 思いうかべる。

とらえよう

ばしよや できごとなどで ひとまとまりに
なっている ところを、ばめんと いいます。
この お話には、五つの ばめんがあります。①
② 五つの ばめんを たしかめましょう。
③ それぞれの ばめんで、どんな できごとが
おこりましたか。

5

① ばめん

ばめんごとに 絵があるね。

さいごの ばめんは、大きな
魚を おい出す ところだと
思うから、「みんなが、」からだね。

② ことば

○「—ような」「—みたいな」などの、
たとえを あらわす ことばに 気を
つけましょう。

③ 話し方の れい

わたしは、「5」の ばめんが すきです。
この ばめんでは、「スイミー」が 目になっ
て、大きな 魚の ふりを しました。
その ようすを 思いうかべると、—。
だから、わたしは、「5」の ばめんが
すきです。

すきな どの
わけ ばめんか

ふかめよう

○ことばに 気を つけて、ばめんの
ようすを 思いうかべましょう。②
○それぞれの ばめんで、「スイミー」は、
どんな ようすや 話し方だったでしょうか。

まとめよう

○すきな ばめんと その わけを、ノートに
書きましょう。

5

ひろげよう

○すきな ばめんに ついて、ともだちと
つたえあい、かんそうを 言いましょう。③



ふりかえろう

知る どの ことばから、お話の ようすを 思いうかべましたか。
読む ばめんや じんぶつの ようすで ころに のこったのは、どんな ことですか。
つなぐ ともだちの すきな ばめんを 聞いて、「いいな。」と 思った ことは なんですか。



たいせつ

お話の ようすを 思いうかべる

- お話には、いくつかの ばめんが ある。
- それぞれの ばめんで おこった できごとを たしかめる。
- たとえを あらわす ことばなどに 気をつけて、ばめんや じんぶつ の ようすを 思いうかべる。



いかそう

絵本や お話を 読む ときは、 ようすを 思いうかべながら 読んで、 すきな ところを 見つけましょう。

10

5



この本、読もう

ようすを 思いうかべながら、 レオ・レオニさんの お話を たのしみましょう。

さかなは さかな コーネリアス アレクサンダと ぜんまいねずみ



フレデリック

ひとあし ひとあし



魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚

広 広 広 広 広

前 前 前 前 前 前 前 前

元 元 元 元 元

岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩

食 食 食 食 食 食 食 食

教 教 教 教 教 教 教 教

光 光 光 光 光 光 光

貝 貝 貝 貝 貝 貝 貝



1年生で ならった かん字

絵の 中の ことばを つかって、文を つくりましょう。
文の おわりには、まる(○)を つけましょう。
しまから 見える 夕日は、赤くて、とても きれいです。

夕日

赤い

山

王さま

田んぼ

村

学校

車

川

貝

森

町

林

青い



じょうほう

あつめて
せいりして
つたえよう

メモをとるとき

町たんけん



いろいろなパンがある。

くまと うさぎの かたち 形の
パンが かわいいな。


どんなふうにも、
とって、おくと、あとで
みんなに知らせる
ことが、できるかな。

メモには、おぼえて おきたい ことや、
あとから たしかめたい こと、だれかに
知らせたい ことなどを 書きます。
メモをとる ときには、つぎの ことに
気を つけましょう。
・みじかい ことばで 書く。
・だいじだと 思った ことを、
えらんで 書く。
・あとから メモを 見かえしても
わかるように 書く。

10

5

ろくがつじゅうににち
六月十二日
(水すい)

- ・パンやさん
 - ・どうぶつの形のパン
 - ・くま
 - ・うさぎ
- 
- A simple line drawing of a bear's head on the left and a rabbit's head on the right, both facing forward. The bear has a small nose and a slight smile. The rabbit has long ears and a small nose.

5

見た^みもの ようすが
絵^えも かいて おくと、
あとからでも わかるね。



▼
学校のことで、家の人に

知らせたいことをきめます。

そして、ようすをくわしく

知ら^しせる ことが できるように、

メモをとりました。

家
家家家家家家家
池
池池池池池池
池いけ
家いえ

○池 いけ ○家 いえ

▼書いたメモを見せあいましょう。
「いい書き方だな。」と思った
ところを、ともだちに つたえましょう。

池いけのこい

- ・五ひき ご
- ・さん さん
- ・三ひきは白と赤 しろ あか
- ・に
- ・ニひきはオレンジ
- ・ろくじつ ろくじつ
- ・六十センチメートルぐらい

5





書く

組み立てを 考えて 書き、知らせよう

こんな もの、 見つけたよ



といを もとう

町の中、どんな ものを見つけたか。
見つけた ものの、どんな ところを、
「いいな」「すてきだな」と 思いますか。



もくひよう

見つけた ものの よさが、ともだちに
つたわるように、組み立てを 考えて、
文しように 書こう。

1 見つけた ものを 書きとめよう。

気づいた ことを メモします。知りたい ことが
あったら、先生や 家の 人に たずねましょう。



さわるとつるつるしている木
・くじらこうえん
・ぶらんこの後ろ
・木のみきが つるつる
・ピンクの花の木 一本
・白い花の木 二本

なにを 見つけたか
どこで 見つけたか
どんな ものの 形、色、
大きさ、数など
人から 聞いた こと

● たしかめよう
「一年生で 学んだ こと」
「メモを とる とき」

9 ページ
82 ページ

● 見とおしを もとう

1 きめよう あつめよう
見つけた ものを
書きとめる。

2 文しようにの 組み立てを
考える。

3 書いて、読みかえす。

4 つなげよう
みんなで 読みあう。

● ふりかえろう

・ 人から 聞いた ことを、ほかと
くべつして 書く。
・ 読む 人に つたわるように、書
かないようの じゅんじよを 考える。

○ 学びを いかそう

「メモを とる
とき」(82 ページ)で
学んだ ことを
いかしましょう。

○ 組み立て

文しようなどが、
どんな まとまり
と じゅんじよで
できて いるかと
いう こと。

160 ページ

○ 数 ○ 後ろ

② 文しょうの 組み立てを 考えよう。

「はじめ」「中」「おわり」の 組み立てで、なにを、どの じゅんに 書くか、メモを もとに 考えましょう。

▼ れいを 見て、組み立てを たしかめましょう。

おわり	中	はじめ
<p>まとめの ことば</p> <p>・みんなにも、さるすべりの木のみきをさわって みてほしい。</p>	<p>くわしい せつめい</p> <p>・ぶらんこの後ろに生えていた。</p> <p>・ピンクの花がさいている木が一本、白い花が さいている木が二本あった。</p> <p>・木のみきをさわると、つるつるしてて、 びっくりした。</p> <p>・先生にきいてみたら、さるすべりという木だと 教えてくれた。</p>	<p>知らせたい こと</p> <p>・おもしろい木を、くじらこうえんで見つけた。</p>

10

5

③ 組み立てを 考える ときは

□ 「はじめ」に、なにに ついて 知らせたいかを 書く。

□ 「中」に、知らせたい ことを、くわしく 書く。

・メモに たくさん 書いた ときは、その 中から、 とくに 知らせたい ことを、 いくつか えらぶ。

・えらんだ ことを、どの じゅんばんで 書くと よいか 考える。

□ 「おわり」に、まとめの ことばや、ともだちへの よびかけを 書く。

ほかに、だいじだと 思った ことは ありますか。



15

10

5

③ 書いて、読みかえそう。

おわり	中	はじめ
<p>わたしは、くじらこうえんで、おもしろい木 を見つけました。</p> <p>さわるとつるつるしている木</p> <p>しもだ かほ</p>	<p>ぶらんこの後ろに、ピンクの花がさいている 木が一本、白い花がさいている木が二本ありま した。木のみきをさわると、つるつるしてて、 びっくりしました。先生にきいてみたら、</p> <p>「それは、さるすべりの木ですよ。」</p> <p>と教えてくれました。</p> <p>みなさんも、ぜひ、さるすべりの木を見に 行って、みきにさわってみてください。</p>	

10

5

書きたい ことを ふせんに 書き出してから ならべかえると、 組み立てを 考えやすいね。

「図をつかって考えよう」 163 ページ



○ 人から 聞いた ことを 書く ときは

・かぎ（「」）をつかって 書く。
・かぎを つかわずに、 「———そうです。」をつかって 書く。

5

4

読んで、はじめて知ったことや、

くじらこうえんに
つるつるした木が
ある ことを、
はじめて 知^しったよ



はじめに、なにを
知らせたいかが書いて
あって、わかりやすかった。



ふりかえろう

知る し 書く か つなぐ

人 ひと から 聞いた き ことを 書く か ときは、どのよう か に 書く か と よい い ですか。

どんな どん な ことに き 気を き つけて、 組み く 立て た てを 考え かんが ました か か。

ともだち とも の 文 ぶん しよう し を 読 よ んで、 まね ま した し たく な な った た と こ ころ ろ は、 ど ど こ こ で で す す か。

丸、
点、
かぎ

●
丸 まる
○

文^{ぶん}の
おわりに
つけます。

● 点^{てん}
()

文^{ぶん}の
中^{なか}の
切^きれ
目^めに
つ
け
ま
す。

○かぎ

人の話したことは（会話）に

つけます。会話は、行をかえて

書^かきます。

丸まる (○)、点てん (・)、かぎ (ㄱ) (ㄴ) は、

それぞれ、一ひとますに書かきます。丸まると

10

5

かぎ（　）も、一^{ひと}ますに書^かきます。

点^{てん}（、）をうたないと、文^{ぶん}の

いみが 正^{ただ}しく つたわらない

ことがあります。

- この店ではきものをかう。

みせ ← か

● この店で、はきものをかう。

「**（め）**まず目の**（せんせい）**あるノートなどに**（か）**書くとき」

と		コ	先
教	で	そ	生
え	す	れ	に
て	よ	は	き
く	。	、	い
れ		さ	て
ま		る	み
し		す	た
た		べ	ら
		り	。
		の	
		木	キ

10

5

会
・話わ

○ 点 てん ○ 丸 まる

○ **買** か
う

組
組
組
組
組
組
組
組
組

後
後
後
後
後
後
後
後うし
ろ

組
み
立
て

丸数
九九丸
丸

数
数数数数数数数
数

まる かず

点 点 点 点 点 点 点 点 点 点
買 買 買 買 買 買 買 買 買 買
買^か 買^{てん}

あいての考えを引き出す しつもんをしよう

あつたらいいな、こんなもの

「今はないけれど、こんなものがあつたらいいな。」と 思うものがありますか。

ともだちとしつもんをしあつて、くわしく考えてみましょう。



といをもとう

どのようなしつもんをしたら、ともだちは、考えをくわしく話してくれるでしょうか。



もくひょう

ともだちの、「あつたらいいな。」と 思うものについて、くわしく 知ることができる しつもんをしよう。

- ・ 知りたいことがわかるように、しつもんするときのことばをえらぶ。
- ・ しつもんをして、あいての考えをくわしく聞く。

①

あつたらいいなと 思うものを、絵にかこう。



空をじゆうにとべる、まほうの羽があつたらいいな。

とんぼの羽の形で、ランドセルみたいにせおえるようにしよう。

● 見とおしをもとう

きめよう
あつめよう

① あつたらいいなと 思うものを、絵にかく。

じゅんび
しよう

② しつものしかたをたしかめる。

はな
話そう
間こう

③ しつもんをしあつて、くわしく考える。

つなげよう

④ はつぴょうを聞きあう。

● ふりかえろう

● たしかめよう

「一年生で 学んだ こと」…… 8 ページ

しつもん

知りたいことなどを人にきくこと。

160 ページ

引き出す

羽

② しつもんのかたをたしかめよう。

▼どんなことを、どんなことばでたずねると、ともだちの考えをくわしく知ることができると思いますか。

どうして、あつたらいいなと思つたの。

雲の上をさんぽしたら、たのしいだろうなと思つたからだよ。

たのしそうだね。さんぽのほかには、なにができるの。

はやくとべるし、ちゅうがえりもできるよ。

どれぐらいはやいの。ええと。ひこうきぐらいかな。

すぐくはやいね。それは、どんな形や色をしているの。

とんぼの羽みたいな形をしているよ。色は、すきとおっているんだ。

しつもんをしあつて、くわしく考えよう。

③ しつもんをしあつて、くわしく考えよう。

②のように、ひとりがせつめいし、もうひとりがしつもんをします。はたらきやつくりについて、くわしく考えましょう。

④ はつぴようを聞きあおう。

グループになり、ひとりずつ、考えたものを話します。聞いた人は、かんそうをつたえましょう。



しつもんにかたえたことを、メモしておこう。



たいせつ

しつもんをして、あいての考えを引き出す

○あいての考えをくわしく聞くために、だいじなことはなにかを考えて、しつもんすることばをえらぶ。



いかそう

ずこうなどでも、しつもんしあつて、なにをつくるか考えましょう。

引引引引引き出す

羽羽羽羽羽

雲雲雲雲雲雲雲雲雲



ふりかえろう

知る話す・聞くつなぐ

しつもんをするときに、どんなことばをつかいましたか。話す人の考えをくわしく聞くために、どんなことに気をつけましたか。つぎにしつもんをするときには、どんなことに気をつけたいですか。



雲

しつもんをするようすを見てみよう。



しつもんをするときは

つぎのようなことをたずねてみましょう。

□あつたらいいなと思つた

□できること(はたらき)

□形や色、大きさなど(つくり)

ほかに、だいじだと思つたことはありますか。



お気に入りの本を しようかいしよう

あなたは、どんな本を 読むことが多いですか。
お気に入りの本を、ともだちにしようかいしま
しょう。

見通しをもとう

1 どんな本がすきか 考える。

2 しようかいする本をえらぶ。
「ミリーのすてきなぼうし」 101 ページ

3 本を読んで、しようかいメモを
書く。

4 本をしようかいする。



1 どんな本がすきか 考えよう。

あなたは、どんな本がすきですか。読
書しろくなどを読みかえして、考えま
しょう。

ぼくは、わくわくする
お話や、たのしいことが
おこるお話がすきだな。

わたしは、虫のずかんや、
虫について くわしく書いて
ある本がすきだよ。



本には、いろいろなしゅるいがあります。

はなし お話



ずかん



し 詩



ほん せつめいしている本



② しょうかいする本をえらぼう。

すきな本や、おもしろそうだと思う 本の中から、ともだちに
しょうかいしたい本をえらびましょう。 「本のせかいを広げよう」 150 ページ



このお話は、101ページから読むことができます。

ぼくは、「ミリーのすてきなぼうし」というお話にしよう。



③ 本を読んで、しょうかいメモを書こう。
えらんだ本を読みかえして、どんなところをしょうかいするか、
考えましょう。 「ことばのたからばこ」 161 ページ

公園
・店長
・店長

だいめい	ミリーのすてきなぼうし
書いた人	きたむら さとし
とうじょう じんぶつ	ミリー 店長さん おばあさん ママ
どんなお話か	ミリーが、そうぞうでいろいろなぼうしをかぶるお話。
すきなところ	ミリーが、公園で、みんながいろいろなぼうしをかぶっていることに気づくところが、たのしい。



④ 本をしようかいしよう。

ともだちに、お気に入りの本を
しようかいしましょう。



ぼくのお気に入りの本は、きたむら
さとさんの「ミリーのすてきなぼう
し」です。

この本には、ミリーという女の子が
出てきます。ミリーは、そうぞうで
いろいろなぼうしをかぶります。

みんなが いろいろなぼうしを
かぶっていることに、ミリーが気づく
ところが、たのしいです。

ぜひ、読んでみてください。

10

5



✓ 読書にしたしむために

□ 読書きろくをふりかえり、じぶ
んは どんな本がすきなのかを
考える。

□ ともだちどうして、お気に入りの
本をしようかいしあう。

5



読んでみよう

ミリーのすてきなぼうし

きたむらさとし さく・絵



ミリーは、さんぽのとき
う、ぼうしやさんの前を通り
ました。ウィンドーには、た
くさん ぼうしがならんでい
ます。ミリーは、なかでも、
色とりどりの羽のついた ぼ
うしが気に入りました。

5

○ 通る

ウィンドー
店のそこから見え
るように、しなも
のをならべる ま
どこと。



「羽のついたぼうしを、見せてください。」

ミリーは、店長さんにたのみました。

「はい、ただいま。」

店長さんは、さっそく、そのぼうしを
もってきてくれました。ためしてみると、
ぴったりです。

「じゃあ、これください。」

ミリーは言いました。

「かしこまりました。」

と、店長さん。

「おねだんは、九万九千九百九十九円で
ございます。」

九万

ミリーは、おさいふをとり出して、中を見てみました。ちよつと
足りないみたいです。

「あの、もうすこしやすいの ありますか。」

「どのくらいのおねだんのものが よろしいでしょう。」

店長さんがたずねました。

「あの——、このくらい。」

ミリーは、おさいふをひらいて、見せました。中は空っぽです。

「はあ——、そのくらいですか——。」

そうつぶやくと、店長さんは、てんじょうを見上げてしまいました。

ミリーも、同じように見上げました。おもしろいもようのてんじょう
です。

「あつ、あります。」

——(ダッシュ)
さいごまで言い切
らずに、とちゅうで
とめるときなどに
つかうことがある。

• 空っぽ

• 足りる

店長さんは、とつぜん、大きな声で言いました。

「ちようどよいのが、一つありました。しょうしようおまちください。」

そう言う、お店のうらの方に 行ってしまいました。

しばらくすると、店長さんは、はこを手にして もどってきました。そして、テーブルにおくと、ふたをとりました。

「これは、とくべつなぼうしです。」

店長さんは言いました。

「大きさも形も色も、じゆうじぎい。おきやくさまのそうぞうしだいで どんなぼうしにもなる、すばらしいぼうしです。」

店長さんは、しんちように ぼうしをはこからとり出すと、ミリーの頭にのせました。ぴったりです。とってもいいかんじです。

頭



「じゃあ、これにしますわ。」

そう言う、ミリーは、おさいふのなかみを ぜんぶ手にとり、店長さんにわたしました。

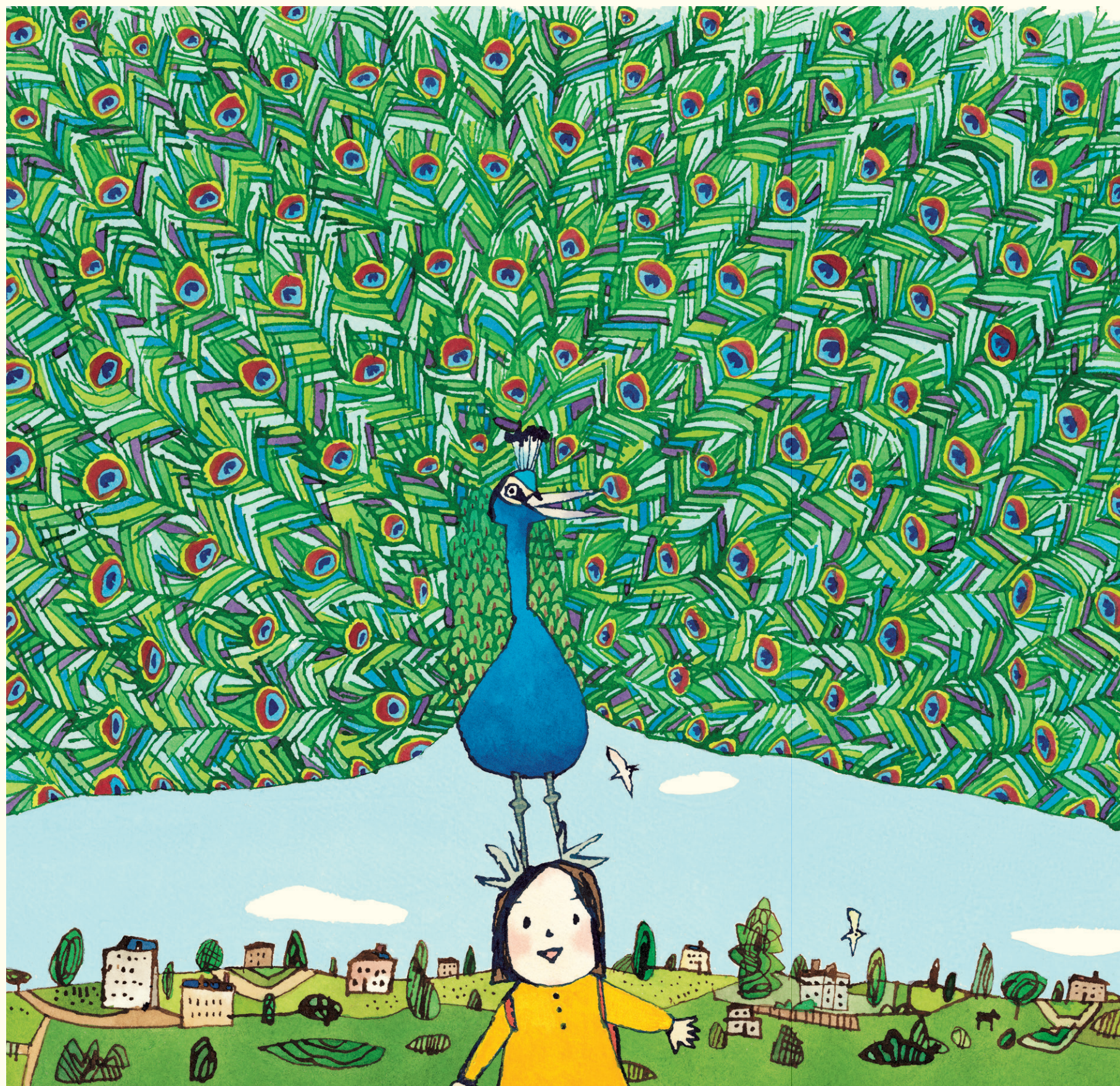
「ありがとうございます。」

と、店長さんはおじぎをしました。

「はこに入れて おつつみしますか。」

「いいえ、このまま かぶっていくから、けっこうです。」

と、ミリーはこたえて、お店を出ました。ミリーは、新しいぼうしが 気に入りました。



「でも、なにかそうぞうしなくちゃ。」

ミリーは思いました。

「じゃないと、ぼうしの形が見えないもの。どんなぼうしにしようかな——。そうだ、お店にあった、いろんな色の羽のぼうし。あんなぼうし——。でもね、もっともっとたくさん羽がついてるの。」

そう、クジャクのぼうし。

ケーキやさんの前をまえ通とおったら、おいしそうなケーキが いっぱい
ならんでいました。ミリーは、そうぞうしました。すると、ぼうし
は、ケーキのぼうしになりました。

花はなやさんを通とおりすぎたとき、ミリーのぼうしは、花はなでいっぱい
のぼうしになりました。

公園こうえんでは、ふんすいのぼうしです。

そのときです。ミリーは、気がつきました。ぼうしをかぶっているのは、じぶんだけじゃないんだと。みんな、ぼうしをもっていたのです。そのどれもが、それぞれがったぼうしでした。





むこうから、おばあさんがやって来^きました。おばあさんのぼうし
 は、くらくてさびしい水^{みず}たまりでした。ミリーがおばあさんにほほ
 えみかけると、ミリーのぼうしの中^{なか}から 鳥^{とり}や魚^{さかな}がとび出^だして、お
 ばあさんのぼうしにとびうつりました。
 ミリーはうれしくなって、歌^{うた}を歌^{うた}いました。すると、ぼうしも
 いっしょに歌^{うた}いました。

5

歌^{うた}

鳥^{とり}

やって来^く
 (来^きた)

そうしてミリーは、家にもどりました。
 でも、ぼうしが大きくなりすぎて、
 中に入れません。ミリーは、ちがった
 ぼうしをそうぞうしてみました。

「まあ、すてきね。ママも、
そんなぼうし、ほしいな。」
「ママだってもってるのよ、
ほんとうは。そうぞうす
ればいいの。」
と、ミリー。

そうです。だれだって
もっているのです。じぶん
だけのすてきなぼうしを。



きたむらさとし
さんは、「ぼくネコ
になる」「わたし
のゆたんぽ」など
も書いています。



通
通通通通通通通
とお
通る

袁
袁袁袁袁袁袁袁
こうえ
公園

公
公公公公
公園

来
来
来
来
来
来
来
来
来
来

頭
頭
頭
頭
頭
頭
頭
頭
頭
頭

万
万
万
万
万
万
万
万
万
万

きゆうまん
九万

あたま
頭

く
来る

鳥
鳥
鳥
鳥
鳥
鳥
鳥
鳥

歌
歌
歌
歌
歌
歌
歌
うた

鳥
とり



雨のうた

つるみ まさお

あめは ひとりじゃ うたえない、
きつと だれかと いっしょだよ。
やねと いっしょに やねのうた
つちと いっしょに つちのうた
かわと いっしょに かわのうた
はなと いっしょに はなのうた。

5



あめは だれとも なかよしで、
どんな うたでも しってるよ。
やねで とんとん やねのうた
つちで ぴちぴち つちのうた
かわで つんつん かわのうた
はなで しとしと はなのうた。

5



たいわのれんしゅう
ことばでみちあんない



みどりさんが、はるかさんに、まちあわせのばしよを でんわでれんらくしています。

「公園の入り口から入って、まっすぐ行ったら、ばら園があるよ。しばらく行ったら、右にまがって。そこにあるベンチでまっているね。」

はるかさんは、みどりさんに会えるでしょうか。

・会う
○分かる
○二回

1 分かりやすさについて話しあおう。

みどりさんのあんないに、分かりにくいところはありますか。わけも考えましょう。

2 みちあんないをしよう。

ちずの中から、まちあわせのばしよをきめて、みちあんないをしましょう。聞く人は、ちずを見ないで、メモしながら聞きます。

まちあわせのばしよは、ふんすいの近くのベンチです。これから、行き方を話します。
ぜんぶで二回まがります。まず、入り口からまっすぐにすすみます。一つ目のトイレをすぎたら、すぐ右にまがります。



3 メモとちずで、たしかめよう。

聞いた人は、あんないされたとおりに行けるかを たしかめましょう。

ふんすいの近くのベンチ
まがるのは二回
・一つ目のトイレ
・十字ろを右



たいせつ

あいてに正しくつたわるように話す

- なについて話すかを、はじめに言う。
- 話すじゅんじよを考える。
- だいじなことは、くわしく言う。

分分分分分
回回回回回
二回



せいかつの中で読もう

みの回りのものを読もう



大きい文字と
小さい文字が
あるよ。

絵をつかっている
ものもあるね。



みの回りには、アからエのように、こ
とばや絵などのつかい方をくふうして、
じょうほうをつたえるものがあります。

1 なにをつたえているかを考えよう。

アからエは、それぞれ、なにをつたえて
いるでしょうか。

2 くふうを見つけて、ともだちと話そう。

アからエは、それぞれ、どんなくふうが
されているでしょうか。つぎのようなこと
から考えましょう。

- 文字の大きさ
- 文字の色
- ことばの多さ
- 絵のつかい方

10



たいせつ

だいじなじょうほうを読みとる

- みの回りには、じょうほうのつたえ方をくふうしているものがある。
- ことばや絵などのつかい方に気を付けて、だいじなことを読みとる。

見つけたものを
しゃしんとって、
ともだちに見せよう。



3 もっとさがしてみよう。
アからエのように、じょう
ほうをつたえているものを、
学校の中でさがしましょう。

みの回り



書くときにつかおう 書いたら、見直そう

あなたはふだん、書いた文しようにを、ど

のように見直していますか。

つぎの はやしさんの手紙を読んで、ど
のようなことを 見直すとよいかを考えま
しょう。

はやしさんは、ふだん
会えないおばあちゃんに、
手紙を書きました。



○はやしさんが、はじめに書いた手紙

おばあちゃんえ

お元気ですか、ぼくはこの前遠足に行き
ました。バスにつてコスモス公園に行っ
ていろいろなあそびをしました。

友だちのあおきくんは、きょうは、とて
もたのしかったねと言っていました。

おばあちゃんはさいきんどんなことをし
ていますか 教えてください。

見直す
手紙
友だち
遠足

○はやしさんが書き直した手紙

おばあちゃんへ

お元気ですか。ぼくは、この前、遠足に
行きました。バスにつてコスモス公園に
行って、いろいろなあそびをしました。

友だちのあおきくんは、

「きょうは、とてもたのしかったね。」
と言っていました。

おばあちゃんは、さいきん、どんなこと
をしていますか。教えてください。

▼はやしさんは、どこを直したでしょうか。



書いた文しようにを見直す

- 文しようにを書いたら、声に出して 読むなど
して、見直す。
- 丸、点、かぎのつかい方や、文字のまちがい
がないかを たしかめる。

▼つぎの文しようにを 直してみましよう。

きょうはおねえちやんとおつかいに行き
ました。レタスとにんじんを買いました、
かえったらおかあさんが「ありがとう。」と
言ってくれてうれしかったです

直 直直直直直直直直直直
紙 紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙
手紙(紙) 友 友友友友
遠 遠遠遠遠遠遠遠遠遠遠
友だち



どうぶつ園ではたらくじゅういさんは、
いつ、どんなしごとを しているの
しょうか。

どうぶつ園の じゅうい



よ
読 む

よ
読 んで考
え
た
こ
と
を

は
な
話
そ
う

これまでの
がくしゅう



せつめいする 文しやうを 読
(たんぽぽの ちえ) む



54 ページ



かん字の
ひろば

2

ねんせい
1年生でならった
かん字

絵の中の ことばをつかって、一しゅうかんの
できごとを、日記を書くように書きましよう。
月曜日は、花だんの草とりをしました。
あつくて、とてもたいへんでした。



どうぶつ園のじゅうい

うえだ みや 文 ぶん そしき だいすけ 絵 え

わたしは、どうぶつ園^{えん}ではたらいっている じゅういです。
わたしのしごとは、どうぶつたちが元^{げん}気にくらせるように
することです。どうぶつが びょうきやけがを したとき
には、ちりょうをします。ある日^ひの わたしのしごとのこ
とを 書^かいてみましょう。

朝^{あさ}、わたしのしごとは、どうぶつ園^{えん}の中^{なか}を 見^み回^{まわ}ること
からはじまります。なぜかというと、元^{げん}気なときの どう

ぶつのようなすを 見^みておくと、びょうきに
なったとき、すぐに気^きづくことが できる
からです。また、ふだんから わたしの顔^{かお}
を見^みせて、なれてもらうという 大^{たい}切^{せつ}なり
ゆうもあります。どうぶつたちは、よく知^し
らない人^{ひと}には、いたいところや つらいと
ころをかくします。そこで、わたしの顔^{かお}を
おぼえてもらって、あんしんして 見^みせて
くれるようにするのです。毎日^{まいにち}、「おはよ
う。」と言^いいながら 家^{いえ}の中^{なか}へ入^{はい}り、声^{こえ}もお
ぼえてもらうように しています。



5

○毎日^{まいにち}

●大^{たい}切^{せつ}

○顔^{かお}

○朝^{あさ}

見^み回^{まわ}りがおわるころ、しいくいんさんによばれました。
いのししのおなかに 赤^{あか}ちゃんがいますかどうか、みてほし



いというのです。おなかの中^{なか}の
ようすをさぐるためには、きか
いを おなかに当^あてなければ
なりません。いのししがこわが
らないように、しいくいんさん
がえさを食^たべさせ、その間^{あいだ}に、
そつと当^あててみました。まちが
いありません。おなかの中^{なか}に、
赤^{あか}ちゃんがいました。



しいくいん
どうぶつのへやを
そうじしたり、え
さをやったりす
る人^{ひと}。

いのしし

○当^あてる

○間^{あいだ}

10

5

お昼^{ひる}前^{まえ}に、どうぶつ園^{えん}の中^{なか}にある びょういんにもどり
ました。すると、けがをしたにほんざるが くすりをのま
ないと、しいくいんさんがこまっていたいました。にほんざる
は、にがいあじが大^{だい}きらいです。
えさの中^{なか}に くすりを入れて の
ませようとしても、すぐに気^きづか
れました。くすりをこなにして、
半^{はん}分^{ぶん}に切^きったバナナに はさんで
わたしました。すると、くすりの
ところだけをよけて、食^たべてしま
いました。こなをはちみつにまぜ



○お昼^{ひる}

にほんざる



○半^{はん}分^{ぶん}

10

5

たら、やっと、いっしょにのみこんでくれました。

お昼^{ひる}すぎには、ワラビーの家^{いえ}に行^いきました。はぐきはは
れている ワラビーが^みつかったので、きょう、ちりよう
をすることに なっていたのです。このワラビーは、はが
ぬけかわるときに ばいきんが
入^{はい}って、はぐきははれてしまいま
した。はぐきのちりようは とて
もいたいので、あばれることがあ
ります。三人^{さんにん}のしいくいんさんに
おさえてもらって、ちりようをし
ました。

5



三人^{さんにん}



ワラビー

夕方^{ゆうがた}、しいくいんさんから 電^{でん}
話^わがかかってきました。ペンギン
が、ボールペンを のみこんでし
まったというのです。ペンギンは、
水中^{すいちゆう}で魚^{さかな}をつかまえて、丸^{まる}ごとの
おので、えさとまちがえたので
しょう。いのちにかかわる たい
へんなことです。大い^{おお}そぎでびよういんにはこびました。
そして、そっとボールペンをとり出^だしました。早め^{はや}に手当^{てあ}
てができたので、ペンギンは、あすには元氣^{げんき}になるでし
う。ひとあんしんです。

5



電^{でん}話^わ

ペンギン



ペンギン

いちにち
一日のしごとのおわりには、

きょうあったできごとや、どうぶつを見て 気がついたことを、日記に書きます。毎日、きろくをしておくと、つぎに同じようなびょうきやけがが あったとき、よりよいちりょうを することが できるのです。

えん
どうぶつ園を出る前には、かならずおふろに入ります。どうぶつの体には、人間のびょうきのもと

5



オグロワラビーNo.202			オグロワラビー	
動物の種類			歯周病	
病名、主要症状			状態	処置
6	15	木	オシロイを噛み、おなか、お尻を舐める	1. 止
6	16	金	①おなかを舐める、②お尻を舐める、③お尻を舐める、④お尻を舐める、⑤お尻を舐める、⑥お尻を舐める、⑦お尻を舐める、⑧お尻を舐める、⑨お尻を舐める、⑩お尻を舐める、⑪お尻を舐める、⑫お尻を舐める、⑬お尻を舐める、⑭お尻を舐める、⑮お尻を舐める、⑯お尻を舐める、⑰お尻を舐める、⑱お尻を舐める、⑲お尻を舐める、⑳お尻を舐める、㉑お尻を舐める、㉒お尻を舐める、㉓お尻を舐める、㉔お尻を舐める、㉕お尻を舐める、㉖お尻を舐める、㉗お尻を舐める、㉘お尻を舐める、㉙お尻を舐める、㉚お尻を舐める、㉛お尻を舐める、㉜お尻を舐める、㉝お尻を舐める、㉞お尻を舐める、㉟お尻を舐める、㊱お尻を舐める、㊲お尻を舐める、㊳お尻を舐める、㊴お尻を舐める、㊵お尻を舐める、㊶お尻を舐める、㊷お尻を舐める、㊸お尻を舐める、㊹お尻を舐める、㊺お尻を舐める、㊻お尻を舐める、㊼お尻を舐める、㊽お尻を舐める、㊾お尻を舐める、㊿お尻を舐める	①お尻を舐める、②お尻を舐める、③お尻を舐める、④お尻を舐める、⑤お尻を舐める、⑥お尻を舐める、⑦お尻を舐める、⑧お尻を舐める、⑨お尻を舐める、⑩お尻を舐める、⑪お尻を舐める、⑫お尻を舐める、⑬お尻を舐める、⑭お尻を舐める、⑮お尻を舐める、⑯お尻を舐める、⑰お尻を舐める、⑱お尻を舐める、⑲お尻を舐める、⑳お尻を舐める、㉑お尻を舐める、㉒お尻を舐める、㉓お尻を舐める、㉔お尻を舐める、㉕お尻を舐める、㉖お尻を舐める、㉗お尻を舐める、㉘お尻を舐める、㉙お尻を舐める、㉚お尻を舐める、㉛お尻を舐める、㉜お尻を舐める、㉝お尻を舐める、㉞お尻を舐める、㉟お尻を舐める、㊱お尻を舐める、㊲お尻を舐める、㊳お尻を舐める、㊴お尻を舐める、㊵お尻を舐める、㊶お尻を舐める、㊷お尻を舐める、㊸お尻を舐める、㊹お尻を舐める、㊺お尻を舐める、㊻お尻を舐める、㊼お尻を舐める、㊽お尻を舐める、㊾お尻を舐める、㊿お尻を舐める
6	17	土	①お尻を舐める、②お尻を舐める、③お尻を舐める、④お尻を舐める、⑤お尻を舐める、⑥お尻を舐める、⑦お尻を舐める、⑧お尻を舐める、⑨お尻を舐める、⑩お尻を舐める、⑪お尻を舐める、⑫お尻を舐める、⑬お尻を舐める、⑭お尻を舐める、⑮お尻を舐める、⑯お尻を舐める、⑰お尻を舐める、⑱お尻を舐める、⑲お尻を舐める、⑳お尻を舐める、㉑お尻を舐める、㉒お尻を舐める、㉓お尻を舐める、㉔お尻を舐める、㉕お尻を舐める、㉖お尻を舐める、㉗お尻を舐める、㉘お尻を舐める、㉙お尻を舐める、㉚お尻を舐める、㉛お尻を舐める、㉜お尻を舐める、㉝お尻を舐める、㉞お尻を舐める、㉟お尻を舐める、㊱お尻を舐める、㊲お尻を舐める、㊳お尻を舐める、㊴お尻を舐める、㊵お尻を舐める、㊶お尻を舐める、㊷お尻を舐める、㊸お尻を舐める、㊹お尻を舐める、㊺お尻を舐める、㊻お尻を舐める、㊼お尻を舐める、㊽お尻を舐める、㊾お尻を舐める、㊿お尻を舐める	①お尻を舐める、②お尻を舐める、③お尻を舐める、④お尻を舐める、⑤お尻を舐める、⑥お尻を舐める、⑦お尻を舐める、⑧お尻を舐める、⑨お尻を舐める、⑩お尻を舐める、⑪お尻を舐める、⑫お尻を舐める、⑬お尻を舐める、⑭お尻を舐める、⑮お尻を舐める、⑯お尻を舐める、⑰お尻を舐める、⑱お尻を舐める、⑲お尻を舐める、⑳お尻を舐める、㉑お尻を舐める、㉒お尻を舐める、㉓お尻を舐める、㉔お尻を舐める、㉕お尻を舐める、㉖お尻を舐める、㉗お尻を舐める、㉘お尻を舐める、㉙お尻を舐める、㉚お尻を舐める、㉛お尻を舐める、㉜お尻を舐める、㉝お尻を舐める、㉞お尻を舐める、㉟お尻を舐める、㊱お尻を舐める、㊲お尻を舐める、㊳お尻を舐める、㊴お尻を舐める、㊵お尻を舐める、㊶お尻を舐める、㊷お尻を舐める、㊸お尻を舐める、㊹お尻を舐める、㊺お尻を舐める、㊻お尻を舐める、㊼お尻を舐める、㊽お尻を舐める、㊾お尻を舐める、㊿お尻を舐める

10

人
•間

に なるものが ついてい ることが あります。だから、
どうぶつにさわった後は、それを どうぶつ園の外に も
ち出さないために、おふろで 体をあらわなければいけな
いのです。

これで、ようやく 長い一日がおわります。

5



•後
○外

う えだ み や さ ん
に は、「び よ う き や
け が を な お す
し ご と」な の 本
が あ り ま す。

見通しをもとう



といをもとう

ひっしやのしごとの中で、あなたが いちばん気に
なったことは、なんですか。



もくひょう

文しように読んで 考えたことを、友だち
と話そう。

- だれが、なにをしたのが 分かるこ
とばに 気をつける。
- じぶんが 知っていることと くらべ
ながら読む。

ひっしや

文しように書いた
人のこと。

160
ページ

とらえよう

ひっしやは、いつ、どんなしごとをしました
か。たしかめましょう。①

ふかめよう

ひっしやが、そのしごとを したわけや、く
ふうしたことを見つけましょう。②
ひっしやのしごとで、毎日すること、この

いつ	朝	見回りがおわるころ
どうぶつの名前	いのしし	いのししのおなか にきかいを当てた。
ひっしやのしごと	どうぶつ園を 見回る。	

まとめよう

日にだけしたことは、なんですか。

ひっしやのしごとの中で、はじめて知って
おどろいたことや、「もっと知りたい。」と思っ
たことは、なんですか。

じぶんのみの回りのことと くらべて考えた
ことを、ノートに書きましょう。

ひろげよう

ノートに書いたことを、グループで話しま
しょう。③



ふりかえろう

知る
読む
つなぐ

どのことばに 気をつけて、ひっしやがしたことを たしかめましたか。
ひっしやのしごとについて、どんなことと くらべて考えましたか。
友だちが考えたことを 聞いて、どう思いましたか。

① ノートのれい

② ことば
わけをあらわすことばに 気をつけま
しょう。

- 「なぜかという」と (124 ページ 7 行目)
- 「だから」 (131 ページ 1 行目)

③ 話し方のれい

わたしがおどろいたのは、
じゆういさんが、毎日、日記
を書いていうことです。
どうしてかという、——。
わたしも、日記を書いてい
るのですが、——。
かんじたことや
かんじたわけ
くらべて考えた
こと



たいせつ

読んで、じぶんの考えをもつ

- だれがなにをしたのか、どんなことがあったのかを 考えながら読む。
- 読んで分かったことを、じぶんのことや 知っていることと くらべて考える。



いかそう

本を読むときには、じぶんの知っていることと くらべながら読みましょう。

5



この本、読もう

生きもののせわをする しごとをしている人について 書かれた本です。

動物園のひみつ



めざせ！動物のお医者さん



ぴっかぴか すいぞくかん



朝 朝朝朝朝朝朝朝朝 朝
顔 顔顔顔顔顔顔顔 顔
毎 毎毎毎毎毎 毎日
当 当当当当当 当てる
間 間間間間間間間 間
昼 昼昼昼昼昼昼昼 お昼
半 半半半半半 半分
電 電電電電電電電 電話
外 外外外外外 外

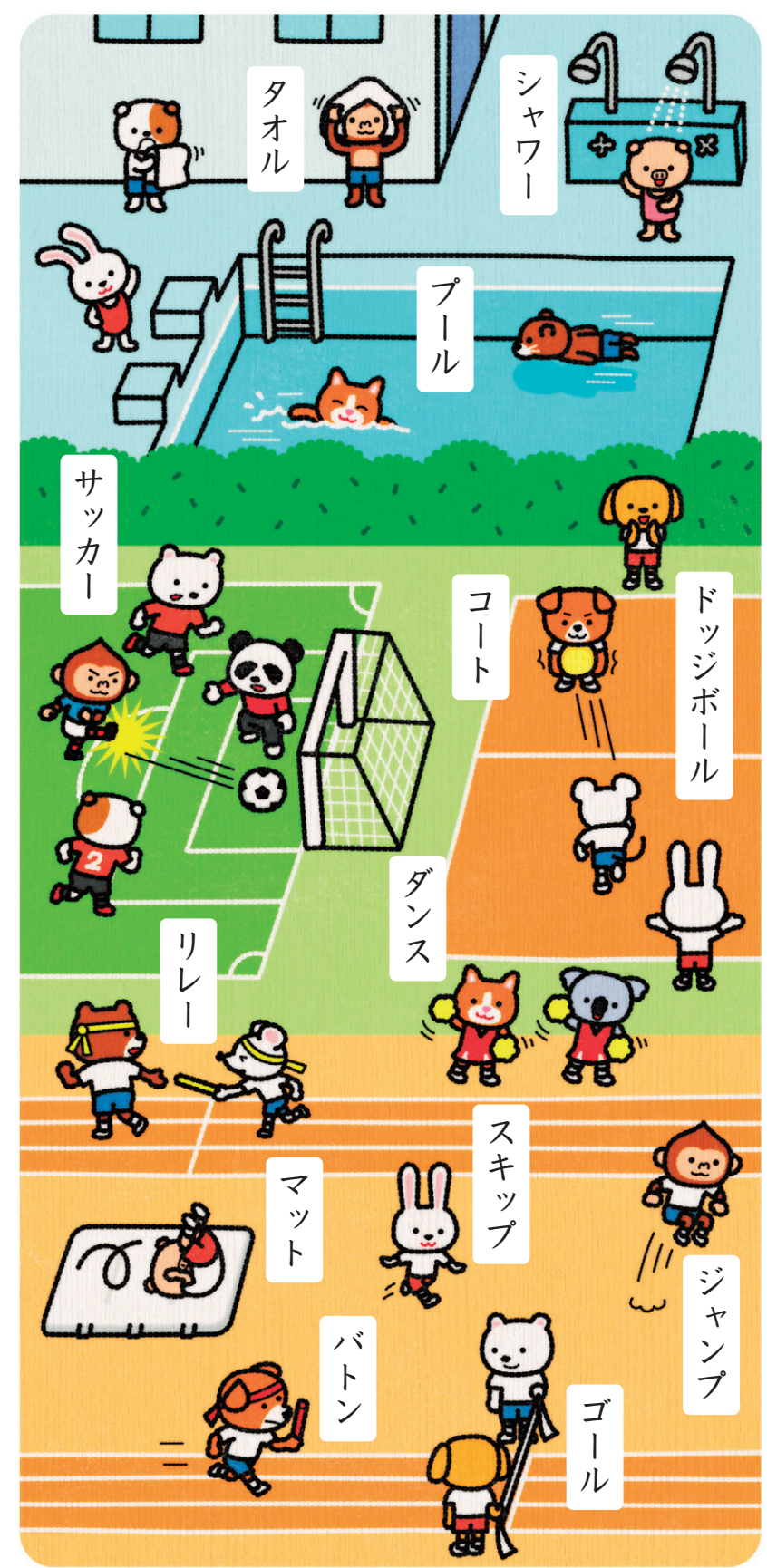


かたかなのひろば

絵の中の ことばをつかって、文をつくりましょう。

犬が、ゴールを目ざして はしっています。

ゴール





ことば

ことばあそびをしよう

声こえに出だして楽たのしみましよう。

声こえのおお大きなやはやさを

かえてみてもいいですね。

■
数え歌 かず
うた

いちじく にんじん
さんしょに しいたけ
ごぼうに おかごに
ななくさ はつたけ
きゅうりに とうがん



■ ことばあそび歌 うた

١٢١

たにかわしゆんたろう

いのいのいのい

このころの

いのいのいのいの

たけのこきれぬ

そのこのそのそ

そこのけそのこ

そのこのそのおの

きのこもきれぬ



● 数 かぞ え 歌 ○ 楽 たの し む

ふるくからつたわるものに

親^{した}しみましょう。

■
いろは歌^{うた}

いろはにほへと

ちりぬるを

わかよたれそ

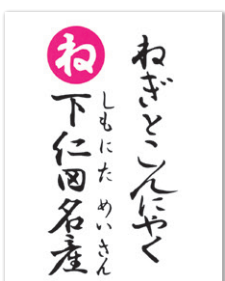
つねならむ

うゐいのおくやま

けふこえて

あさきゆめみし

五^(元)ひもせす



ちいきの、ゆうめいなところや
もの、^{ひと}人などをとり^あ上げています。

○ **親**^{した}
しむ

よんじゅうななも 四十七文字のひらがなが、一回
ずつかわれています。声に出
して読んでみましょう。



親

親親親親親親親親
親したしむ

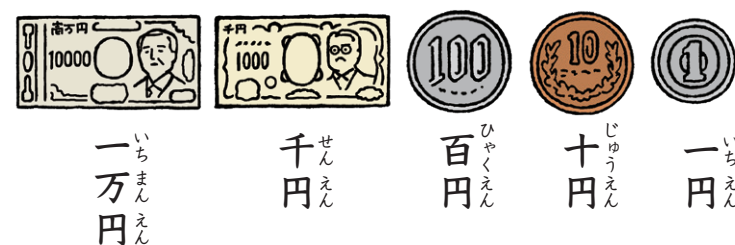
楽

楽楽楽楽楽楽楽楽
楽たのしむ

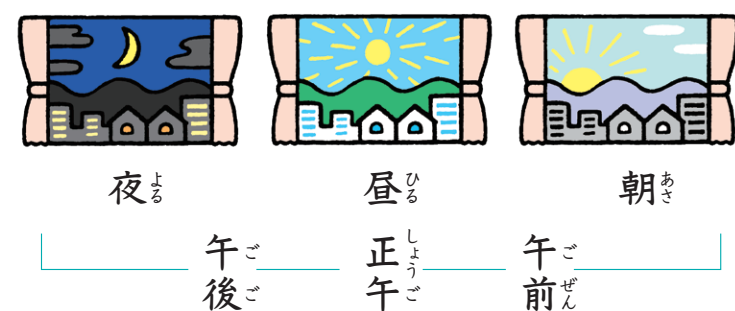
いえひと
家の人

母		わたし		父	親
姉				兄	子
妹				弟	

かね
お金



いちにち
一日



○ 夜 よ 午後 ごご ○ 午 ひる 前 ぜん ○ 弟 おとうと ○ 兄 あに ○ 母 はは ○ 父 ちち ● 親 おや

きょうか
教科



いろ
色



てんき
天気



● 体^{たい}育 ● 図^ず工^{こう} ● 音^{おん}楽^{がく} ● 生^{せい}活^{かつ} ● 算^{さん}数^{すう} ● 国^{こく}語^ご ● 教^{きょう}科^か

161 ページ
 ことばのたからばこ
 かん字をつかって
 かん字で書きましょう。
 かなにも、なかまのことばをあつめましょう。

161 ページ

父	父父父父	父	ちち
母	母母母母	母	はは
兄	兄兄兄兄	兄	あに
弟	弟弟弟弟弟	弟	おとうと
午	午午午午	午前	ごぜん
夜	夜夜夜夜夜	夜	よる
科	科科长科	教科	きょうか
国	国国国国国	国語	こくご
語	語語語語語	國語	こくご
算	算算算算算	算数	さんすう
活	活活活活活	生活	せいかつ
工	工工工工	図工	ずこう

がくしゅうをひろく



・知りたいことの見つけ方、しらべ方



「たいせつ」のまとめ..... 142
 いなばの 白うさぎ 146
 本のせかいを広げよう 150
 ひらがなとかたかな 153
 これまでにならった かん字 154
 この本でならう かん字 156
 がくしゅうに用いることば 160
 ことばのたからばこ 161
 図をつかって考えよう 163



ねんせい
1年生でならった
かん字

絵の中の 小学校のようすを書きましょう。
 「は」や「を」を 正しくつかいましょう。
 こうものの近くで、一年生が友だちを
 まっています。

小学校



「たいせつ」のまとめ

この本でがくしゅうする、大切なことを まとめています。
 たしかめたり、ほかのがくしゅうで つかったりしま
 しょう。

・くうらんには、それぞれのがくしゅうを ふりかえって
 みて、自分が 大切だと思ったことを 書きましょう。



ほかに、だいじだと
 思ったことはありますか。



だいじなことをおとさずに 聞く

43 ページ

○聞いておくと よいことはなにかを かんがえながら聞く。

○聞いたことの中から、だいじだと思ふことを メモする。

しつもんをして、あいての考えを引き出す

93 ページ

○あいての考えを くわしく聞くために、だいじなことは
 なにかを考えて、しつもんすることばをえらぶ。

あいてに正しくつたわるように 話す

117 ページ

○なにについて話すかを、はじめに言う。

○話すじゅんじょを考える。

○だいじなことは、くわしく言う。

10

5



日記に書くこと

39 ページ

○したこと ○見たこと、見つけたもの

○言ったこと、きいたこと ○思ったこと

かんさつしたことを書く

61 ページ

○見たり、さわったり、においをかいだりして、ていねい
 にかんさつし、ようすやうごきを くわしく書く。

組み立てを考えて書く

88 ページ

○なにかを知らせる文しうは、つぎのように組み立てる。

・はじめ——知らせたいこと

・中——知らせたいことの、くわしいせつめい

・おわり——まとめのことば

書いた文しうを見直す

121 ページ

○文しうを書いたら、声に出して読むなどして、見直す。

○丸、点、かぎや、文字のまちがいがなにかを たしかめる。

10

5



ほかに、だいじだと
 思ったことはありますか。



せつめいする文しよう

せつめいする文しようを読む

54 ページ

○ だいいいや絵から、その文しようで 書かれていたことを たしかめる。

○ じゅんじよがわかることばや、わけに気をつけて 読む。

だいいじようほうを読むとる

119 ページ

○ みの回りには、じようほうのつたえ方を くふうして いる ものがある。

○ ことばや絵などのつかい方に 気をつけて、だいいじなことを読みとる。

読んで、じぶんの考えをもつ

134 ページ

○ だれがなにをしたのか、どんなことがあったのかを 考えながら読む。

○ 読んで分かったことを、じぶんのことや 知っていること

とと くらべて考える。

お話

どんなおはなしかをたしかめる

32 ページ

○ とうじようじんぶつをたしかめる。

○ つぎのようなことばを見つける。

・ したことや、言ったことが わかることば

・ 「いつ」や「どこ」が わかることば

—— 「あさ」「雪の下」など

お話のようすを思いうかべる

80 ページ

○ お話には、いくつかのばめんがある。

○ それぞれのばめんでは、おこったできごとをたしかめる。

○ たとえをあらわすことばなどに 気をつけて、ばめんや じんぶつのようすを思いうかべる。



ほかに、だいいじだと 思ったことはありませんか。

〈せつめいする文しよう〉

〈お話〉





「聞いて たのしもう」(62ページ)で 読
んでもらったお話です。ほかに、どのような
楽しみ方があるでしょう。

いなばの 白うさぎ

ながわりえこ 文

むかし、むかし、大むかし。
いずもの国に、八十人ものかみさまの
兄弟がいました。そして、自分こそ、国を
おさめるのにふさわしいと、たがいに力を

きそい合っていました。でも、すえっ子の
オオクニヌシだけは、あらそうことをこの
みませんでした。兄さんたちは、弟をいく
じなしとわらい、しごとを言いつけては、

こきつかいました。

さて、ある日、兄さんたちは、きれいな
おひめさまをおよめにもらおうと、いなば
の国へむかいました。たびのにもつは、大
きなふくろにつめて、オオクニヌシにかつ
がせました。

みがるな兄さんたちが、弟をのこして
どんどん行くと、けたのみさきで、赤はだ
かのうさぎが たおれていました。毛を
すっかりむしりとられて、ふるえています。
「これは、おもしろいうさぎだ。からかつ
てやろう。」

と、兄さんたちは足を止めて、
「そのうさぎ、海に入って しお水をあび、

もういちど、だれかに
読んでもらいたいな。

自分で読んで
みようかな。

こんどは、だれかに
読んであげたいな。



つめたい風に 当たるとよいぞ。
と教えました。
うさぎは、よろこんで海に入りました。
ところが、しお水は体中にしみて、風はひ
ふをやぶきました。

あまりのいたさに うさぎがいないと
と、兄さんたちの後から オオクニヌシが
来て、やさしく、
「どうしたのかね。」
とききました。
うさぎは、なみだをぬぐって、話しはじ
めました。

わたしは、おきのしに すんでいました。

けたのみさきにわたって見たかったのですが、およげません。よいほうほうはないかと考えて、海^{うみ}にいるわに^①のせなかを思^{おも}いつきました。そこで、わにに言^いいました。「われわれうさぎと、きみたちわにさんと、どっちが多いか少ないか、くらべてみないか。」

すると、わには、
「そりやいい。しかし、どうやるのかね。」
とききました。

「かんだんだよ。」
と、わたしは答^{こた}えました。

「わにさんをぜんぶあつめて、けたのみさきまで一^{いち}れつにつながっておくれ。せ

なかの上^{うえ}を、わたしがぴよんぴよんと
で、数^{かず}えよう。」

「なるほど、うさぎさんはかしこい。」

わには、なかまをよびあつめると、けたの方^{ほう}へ一^{いち}れつにならばせました。

わたしは、わにの上^{うえ}を、一^{ひと}つ二^{ふた}つと数^{かず}えながら、ぴよんぴよんとんで行^いきました。

そして、あと一^{いっ}歩^ぽできしに下^おりるとい
とき、うれしくなって、つい、

「きみたち、だまされたね。」
と言^いってしまったのです。

そのとたん、おこったわにが、大^{おお}きな口^{くち}
をあけて、かみつきました。あつというま
に、毛^けはすっかりむしりとられ、わたしは、

赤^{あか}はだかになっていました。

そこに、かみさまがおおぜい通^{とお}りかかっ
て、しお水^{みず}をあびて風^{かぜ}に当^あたるとよいと
言^いわれました。でも、よくなるどころか、
いたくなるばかりで、とてもがまんができ
ません。

うさぎの話^{はなし}を聞^きくと、オオクニヌシは、
「おお、かわいそうに。すぐ、川^{かわ}の水^{みず}で
よくあらいなさい。それから、水^{みず}べに生^は
えているがまのほをとって、まきち
らし、ねころがるとよい。元^{もと}どおりにな
るだろう。」

と教^{おし}えました。

うさぎは川^{かわ}へ行^いって、きれいな水^{みず}でしお
水^{みず}をていねいにあらいながすと、がまの
ほをあつめた上^{うえ}にねころがりました。
すると、本^{ほん}当^{とう}にまっ白^{しろ}い、ふわふわの毛^けの
白^{しろ}うさぎにもどりました。

それからというものの、「オオクニヌシこそ、
八十人^{はちじゅうにん}の兄弟^{きょうだい}の中^{なか}でいちばんすぐれた
方^{かた}だ。」と、世^よにつたわるようになりました。

① わに

こころでは、さめのこと。

ながわりえっさんは、「くじらぐも」のさく
しやです。「ぐりとぐら」なども書いています。

本のせかいを 広げよう



読み終わった本には、
□にしるしをつけましょう。

お話・絵本

□ なぞなぞのすきな女の子



なぞなぞのすきな女の子は、はらべこのオオカミに、もんだいを出しました。オオカミは、答えられるでしょうか。

まつおかきようこ 作
おおこそれいこ 絵

□ ねえさんといもうと



小さい妹は、ねえさんといつもいっしょ。でもある日、妹は、のぎくのさく草原まで、ひとりで行ってみました。

シャロット・リゾットウ 文
さかいこまこ 絵・やく

□ おおきな きが ほしい



木の上に作った、こやで、おやつを食べる。木には、りすや鳥もすんでいる。そんな大きな木がほしいと思いませんか。

さとう さとる 文
むらかみ つとむ 絵

□ なずく このつぺ?



「なずく このつぺ?」「わっぱど がらん。」花のめを見つけた 虫たちのおしゃべりを、じっくり聞いてみましょう。

カーソン・エリス 作
アーサー・ビナード やく

□ くまの子ウーフ



ウーフは、あそぶこと、食べること、考えることが大好き。きょうも、「どうして」とたずねるウーフの声が聞こえます。

かんざわとしこ 作
いのうえ ようすけ 絵

□ スタンリーとちいさな火星人



にわのうちゅう船にのりこみ、ちきゅうからとび立ったスタンリー。もどってきたうちゅう船から出てきたのは――。

サイモン・ジエームズ 作
ちばしげきやく

□ はじめてのキャンプ



大きい子たちに交じって、キャンプに行くことになった なほちゃん。さあ、はじめてのキャンプがはじまります。

はやし あきこ 作・絵

□ ありのフェルダ



ありのフェルダは、よきで、いたずらが大好き。ほら、きょうも、おもしろいことはないかとさがしていますよ。

オンドジエイ・セコラ 作・絵
せきざわ あきこ やく

しぜん・ちしき

□ きのこレストラン



たくさんさんの生きものたちが、えさを食べに、きのこにあつまってきました。きのこは、虫のレストランです。

しんかい たかし しゃしん・文

□ はこぶ



さいしよは、ものを手ではこんでいましたが、もつとはやく、遠く、たくんはこぶために、くふうがされていきました。

かまた あゆみ

□ なつのずかん



こうていや公園などのみちかなばしでは、夏に、どんな草花や木、虫、鳥などの生きものが見られるでしょうか。

つゆき かずお かんしゅう

□ 犬のハナコのおいしやさん



ヒロシ先生は、どうぶつびょういんのおいしやさん。交通じこにあった犬のハナコも、いのちをすくってもらいました。

いまにしのりこ 文
はまだ かずお しゃしん

し 詩・ことば

□ たまごのなかで



なの花、ちようちよ、チューリップ――。春の草花や虫などの詩が、いっぱいです。読んで、春をかんじてみませんか。

こわせ・たまみ へん
おのちよ 絵

□ このあいだに なにがあった?



二まいならんだ しゃしんの間に、どんなことがおきたのでしょうか。そうぞうしながら、ページをめくってみましょう。

さとう まさひこ ユーフラテス

□ カラスウリ



まっかなみをつけるカラスウリは、夏の夜、白いレースみたいな花をさかせます。どうして、夜にさくのでしょうか。

ふじまる あつお しゃしん
ありさわ しげお 文

□ ことばあそびの たび



ことばが大好きなアラマ先生は、古いかばんにことばあそびをつめこんで、げんごうとたびをしています。

たにかわしゅんたろう
はせみつこ 作
くわばらのぶゆき 絵

ぱばだざが
ぴびぢじぎ
ぶぶづずぐ
ぺべでぜげ
ぽぼどぞご

15

すうじ
(のばす音)
きつて
(つまる音)

んわらやまはなたさかあ
(い)り(い)みひにちしきい
(う)るゆむふぬつすくう
(え)れ(え)めへねてせけえ
をろよもほのとそこお

10

5

ぴびじりみひにちしき
ややややややや
びびじりみひにちしき
ゆゆゆゆゆゆゆ
ぴびじりみひにちしき
よよよよよよよ

10

5

パバダザガ
ピビヂジギ
プブヅズグ
ペベデゼゲ
ポボドゾゴ

15

スूप
(のばす音)
カップ
(つまる音)

ンワラヤマハナタサカア
(イ)リ(イ)ミヒニチシキイ
(ウ)ルユムフヌツスクウ
(エ)レ(エ)メヘネテセケエ
ヲロヨモホノトソコオ

10

5

ピビジャギリミヤニヤチャシャキャ
ビババジュグリュミヒニチュシユキュ
ピビジョギリミヒニチヨシヨキヨ

10

5

ひらがなとかたかな

- たてに読んだり、よこに読んだりしましょう。
- 書きまちがえやすい字がないか、たしかめましょう。



エスディージーズ
SDGs (じぞくかのうな かいはつもくひょう)の
たっせいにむけて



しぜんやエネルギーについて 考えることができる本



風くんと電気ちゃんの大ぼうけん
うしやま いずみ かんしゅう
さいとう みちこ 文
はやし こう 絵



止めなくちゃ！
気候変動
ニール・レイトン 作・絵
いわじま よしひと やく
むかいひとし おおやま たかひろ
日本語版かんしゅう



ステラとカモメと
プラスチック
ジョージナ・ステイブンス 作
イジー・バートン 絵
いとうのぶこ やく



地球の森の
ハートさがし
ふじわら こういち
しやん・文



もったいない
ばあさん
しんじゅ まりこ



「もったいないばあさん」
には、ほかに、いろいろ
な本があります。

読書を楽しもう

人形げき

とうじょうじんぶつの紙人形を
作って、すきなお話を げきに
しましょう。友だちと、やくに分か
れてもいいですね。



絵をくらべて読もう

同じお話でも、絵がちがうと
かんじ方がかわります。読みくら
べてみましょう。



10

5

□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
左	林	早	八	年	日	二	名	土	天
⑤	⑧	⑥	②	⑥	④	②	⑥	③	④
△さ ひだり	△りん はやし	△そう ははやい はやまる はやめる (さつ)	△や やつ やち よし	△ねん とし	△じつ かひ にち	△ふた に ふたつ	△な なめい なめよう	△ど つち	△あま (あめ) てん
□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
目	村	虫	見	耳	右	町	本	文	百
⑤	⑦	⑥	⑦	⑥	⑤	⑦	⑤	④	⑥
△め (ま)(ほく)	△むら そん	△むし ちゅう	△み みえる みせる けん	△みみ (じ)	△みぎ ゆう	△まち ちよう	△ほん もと	△ぶん もん (ふみ) (も)	ひやく
□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
					六	夕	山	休	森
					④	③	③	⑥	⑫
					△ろく むつ むい	△ゆう (せき)	△さん やま	△やす やすまる やすめる きゆう	△もり しん
									木
									④
									△き こ ほく もく

<div><div>石</div><div>⑤</div><div><div>いし</div><div>せき</div><div>(こく)</div></div></div>	<div><div>雨</div><div>⑧</div><div><div>あめ</div><div>あま</div></div></div>	<div><div>足</div><div>⑦</div><div><div>あし</div><div>そく</div><div>たす</div><div>たりる</div></div></div>	<div><div>赤</div><div>⑦</div><div><div>あか</div><div>あかい</div><div>あからめる</div><div>せき</div><div>(しゃく)</div></div></div>	<div><div>青</div><div>⑧</div><div><div>あお</div><div>せい</div><div>い</div><div>しょう</div></div></div>	<div><div>糸</div><div>⑥</div><div><div>かん</div><div>ひ</div><div>数</div><div>読み</div><div>方</div><div>いと</div></div></div>	<div><div>たし</div><div>かめ</div></div>		
<div><div>音</div><div>⑨</div><div><div>おと</div><div>おん</div><div>(いん)</div></div></div>	<div><div>王</div><div>④</div><div><div>おう</div></div></div>	<div><div>円</div><div>④</div><div><div>えん</div><div>まるい</div></div></div>	<div><div>上</div><div>③</div><div><div>うへ</div><div>あがる</div><div>あける</div><div>のぼる</div><div>(のぼす)</div><div>しょう</div><div>あみ</div><div>わ</div><div>(しょう)</div></div></div>	<div><div>入</div><div>②</div><div><div>いり</div><div>はいる</div><div>にゅう</div></div></div>	<div><div>犬</div><div>④</div><div><div>いぬ</div><div>けん</div></div></div>	<div><div>糸</div><div>⑥</div><div><div>いと</div></div></div>	<div><div>一</div><div>①</div><div><div>いち</div><div>ひとつ</div><div>いっ</div><div>つ</div></div></div>	
<div><div>九</div><div>②</div><div><div>きゅう</div><div>く</div><div>(こののつ)</div></div></div>	<div><div>気</div><div>⑥</div><div><div>けき</div></div></div>	<div><div>川</div><div>③</div><div><div>かわ</div><div>(せん)</div></div></div>	<div><div>学</div><div>⑧</div><div><div>がく</div><div>まなぶ</div></div></div>	<div><div>貝</div><div>⑦</div><div><div>かい</div></div></div>	<div><div>花</div><div>⑦</div><div><div>はな</div></div></div>	<div><div>火</div><div>④</div><div><div>ひ</div><div>か</div><div>(ほ)</div></div></div>	<div><div>女</div><div>③</div><div><div>おんな</div><div>(め)</div><div>(によう)</div><div>(う)</div></div></div>	<div><div>男</div><div>⑦</div><div><div>おとこ</div><div>だん</div><div>なん</div></div></div>
<div><div>四</div><div>⑤</div><div><div>よ</div><div>よつ</div><div>ん</div><div>つ</div></div></div>	<div><div>三</div><div>③</div><div><div>さん</div><div>みつ</div><div>み</div><div>つ</div><div>つ</div></div></div>	<div><div>校</div><div>⑩</div><div><div>こう</div></div></div>	<div><div>五</div><div>④</div><div><div>ご</div><div>いつ</div><div>つ</div></div></div>	<div><div>子</div><div>③</div><div><div>こ</div><div>す</div><div>し</div></div></div>	<div><div>月</div><div>④</div><div><div>がつ</div><div>つき</div></div></div>	<div><div>口</div><div>③</div><div><div>くち</div><div>く</div><div>こう</div></div></div>	<div><div>草</div><div>⑨</div><div><div>くさ</div><div>そう</div></div></div>	<div><div>金</div><div>⑧</div><div><div>かね</div><div>こん</div><div>かな</div></div></div>
<div><div>正</div><div>⑤</div><div><div>しょう</div><div>ただしい</div><div>まさ</div></div></div>	<div><div>中</div><div>④</div><div><div>ちゅう</div><div>なか</div><div>ゆう</div></div></div>	<div><div>十</div><div>②</div><div><div>じゅう</div><div>とお</div><div>じつ</div><div>じゅう</div><div>ふ</div><div>ふ</div></div></div>	<div><div>車</div><div>⑦</div><div><div>しゃ</div><div>くる</div><div>ま</div></div></div>	<div><div>七</div><div>②</div><div><div>しち</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div><div>な</div></div></div>				

これまでにならった かん字

なラった読み方、あいうえおじゆんにならべてあります。
△は、これからならう読み方。() は、小学校ではならわな読み方。

この本でならう かん字

読み方は、この本でならうもの。

19 ページ
読 かん字
14画 画数
どく よむ 読み方
音読 本をつかう
読む

25 南
9画
みなみ
南をむく

図書館たんけん
としよかん

ふきのとう

19 読
14画
どく よむ
音読 本を読む

21 雪
11画
ゆき
雪がふる

40 22 声
7画
せい こえ
音声 声を出す

22 言
7画
いう
いけんを言う

52 23 行
6画
ぎょう
とおくへ行く
行かえる

春が いっぱい
はる

36 春
9画
はる
春になる

日記を書こう
にっき か

38 思
9画
おもう
思い出す

38 記
10画
き
日記

38 曜
18画
よう
日曜日

39 肉
6画
にく
ひき肉

ともだちはどこかな

40 話
13画
はなす
先生と話す
おもしろい話
わ 会話

40 聞
14画
きく
話を聞く
きこえる
音が聞こえる

たんぼのちえ

46 黄
11画
き
黄色い花

46 色
6画
いろ
黄色い花

47 黒
11画
くろ
黒っぽい石

48 太
4画
ふと
犬が太る
太い

48 毛
4画
け(げ)
わた毛

50 高
10画
たかい
せいが高い
たかまる
はしり高とび
気分が高まる
たかめる
気分を高める

50 風
9画
かぜ
風がふく

50 晴
12画
はれる
晴れた日
はらす
見晴らし

51 多
6画
おおい
人が多い

51 新
13画
あたらし
新しいなかま

52 考
6画
かんがえ
よく考える

かんさつ名人になろう
めいじん

57 形
7画
かたち
まるい形

139 58 体
7画
からだ
体がのびる
たい 体育

99 58 長
8画
ながい
長さをはかる
ちよう
店長

60 近
7画
ちかい
近い
いえが

60 同
6画
おなじ
同じにおい

同じぶんをもつ
おなじ

66 今
4画
いま
今から行く

116 66 会
6画
かい
会社
あう
出会う

66 社
7画
しゃ
会社

66 刀
2画
かたな
小刀で切る
(がたな)

125 66 切
4画
きる
糸が切れる
きれる
大切
かみを切る
せつ

66 内
4画
ない
町内

99 66 店
8画
みせ
大きな店
てん
店長

66 姉
8画
あね
姉と妹

66 妹
8画
いもうと
妹と姉

66 線
15画
せん
線をひく

66 汽
7画
き
汽車

66 海
9画
うみ
海が見える

67 魚
11画
さかな
小さな魚

68 広
5画
ひろい
広い海
ひろめる
話を広める
ひろがる
話を広げる
ひろげる
ぬのを広げる

138 68 前
9画
まえ
名前
ぜん
午前

72 元
4画
げん
元気

73 岩
8画
いわ
岩かげ

75 食
9画
たべる
パンを食べる

77 光
6画
ひかり
たいようの光
ほしが光る

139 76 教
11画
おしえる
みちを教える
きよう
教科

83 家
10画
いえ
家の人

83 池
6画
いけ
池のこい

メモをとるとき

138	138			138	137	139			131	129	127
母	父	なかまのことばとかん字		親	楽	ことばあそびをしよう		外	電	半	
5画 かゝ	4画 かゝ			16画 かゝ	13画 かゝ			5画 かゝ	13画 かゝ	5画 かゝ	
はは	ちち			「したしむ したしい おや」 親子	「たのしむ たのしい がく」 音楽			そと	でん	はん	
母と父 ちち ちち	父と母 はは はは			ほん 本に親しむ ひと 親しい人	あそびを はな 楽しむ おん 話			外に出る で	電話 わ	半分 ぶん	
139	139	139	139	139	139	139	138	138	138	138	
工	活	算	語	国	科	夜	午	弟	兄		
3画 かゝ	9画 かゝ	14画 かゝ	14画 かゝ	8画 かゝ	9画 かゝ	8画 かゝ	4画 かゝ	7画 かゝ	5画 かゝ		
こう	かつ	さん	ご	こく	か	よる	ご	おとうと	あに		
図工 ず え	生活 せい くわ	算数 さん ず	国語 こく ご	国語 こく ご	教科 きょう く	昼と夜 ひる と よる	午前 げん ぜん	弟と兄 あに と え	兄と弟 え と え		

90 引 4画 ひく 「ひける ひける」 引き出す 気が引ける	あつたらいいな、 こんなもの		89 買 12画 かう 本を 買う	89 点 9画 てん 点と 丸	89 丸 3画 「まる まるい まるめる」 丸と 丸い 丸める	139 数 13画 かず かぞえる すう 算数	136 後 9画 ご あと 午後	85 組 11画 くむ 「くみ くみ」 組み立て 二年一組	こんな もの、 見つけたよ	
102 万 3画 まん 一万円	101 通 10画 とおる 「とおる とおす」 店の前を通る 先を見通す	99 園 13画 えん 公園	99 公 4画 こう 公園	おきに入りの本を しょうかいしよう ミリーのすてきなぼうし		94 夏 10画 なつ 夏休み	夏が いっぱい		92 雲 12画 くも 雲の上	91 羽 6画 はね とんぼの羽
120 直 8画 なおす 「なおす なおる」 見直す きげんが直る	書いたら、 見直そう		118 回 6画 「かい まわる まわす」 二回 みの回り こまを回す	117 分 4画 「わかる わかる わかれる わかっ ぶん」 いみが分かる なかま分け 分かれみち 半分	ことばでみちあんない		110 歌 14画 うた 「うた うたう」 歌をつくる みんなて歌う	110 鳥 11画 とり 鳥がとぶ	110 来 7画 くる やって来る	104 頭 16画 あたま 頭にのせる
127 昼 9画 ひる お昼	130 間 12画 あいだ けん(げん) 人間	126 当 6画 「あてる あたる」 手を当てる まどに当たる	125 毎 6画 まい 毎日	125 顔 18画 かお 顔をみせる	124 朝 12画 あさ 毎朝	どうぶつ園のじゅうい		120 友 4画 とも 友だち	120 遠 13画 えん 遠足	120 紙 10画 かみ(がみ) 手紙

音声が聞けないときは、ここを読みましよう。

●にしのさんの話

いっしょにきていた、ともだちのゆかさんをさがしています。

ゆかさんは、青と白の たてのしまもようの シャツをきて、白いぼうしをかぶり、リュック サックをせおっています。

見つけたら、わたしにおしえてください。

もういちど言います。

いっしょにきていた、ともだちのゆかさんをさがしています。

ゆかさんは、青と白の たてのしまもようの シャツをきて、白いぼうしをかぶり、リュック サックをせおっています。

見つけたら、わたしにおしえてください。

ともだちは どこかな



がくしゅうに用いることば

国語の「がくしゅう」で、よくつかわれることばです。
 いみをたしかめて、がくしゅうにいかしましょう。



とうじょうじんぶつ (じんぶつ)

お話の中に 出てくる 人のこと
 です。お話の中で、人のように
 うごいたり、考えたりする生きもの
 や ものも、とうじょうじんぶ
 つ (じんぶつ) といえます。

30 ページ



メモ

聞いたことや 考えたことなど
 を、後でたしかめられるように
 書きとめることです。また、書き
 とめたものも、メモといえます。

42 ページ



ばめん

お話の中にある いくつかのま
 とまりのことです。時間やばしょ、
 とうじょうじんぶつとしたことな
 どで、ひとまとまりに なってい
 ることが 多いです。

78 ページ



組み立て

文しように話が、どのようなま

とまりとじゅんじよで できてい
 るかということです。「はじめ」
 「中」「おわり」という 三つのま
 とまりで考えると、分かりやす
 くなると思います。

85 ページ

読むときは、それぞれのまとまりが
 何について 書かれているかを 考え
 ながら読むと、文しようにぜんたいのな
 いようが よく分かります。

話したり書いたりする ときは、つた
 えたいことを まとまりごとにせいり
 して、組み立てを考えると、聞く人や
 読む人に つたわりやすくなります。



しつもん

分らないことや 知りたいこ
 と、たしかめたいことなどを、人
 にきくことです。しつもんをする
 ときは、あいての話を よく聞い
 て、かんけいのあることを たず
 ねるようにします。

91 ページ

話し合うときには、おたがいに しつ
 もんをし合うことで、ほかの人の考え
 が よく分かったり、みんなの考えが
 せいりされたりします。



ひつしや

文しように書いた 人のこと
 です。お話や詩などを 作った人
 である「さくしや」とくべつして、
 せつめいする文しように 書いた
 人を ひつしやということが あ
 ります。

132 ページ



れい

「たんばの ちえ」のひつしや
 は、うえむらとしおさんです。

ひつしやがどんな人かを たしかめた
 り、ひつしやが考えたことに 気をつ
 けて 読んだりすると、その文しよ
 うが 何について せつめいしているの
 が よく分かります。

一年生で学んだことば

- だいめい
- さくしや
- やくしや





ことばのたからばこ

じんぶつやできごと、見つけたことについて、
かんじたことを つたえるときに、つかいましょう。



じんぶつを
あらわすことば



もののようすを
あらわすことば

◇ たくましい
◇ ゆうきのある
◇ しっかりもの
◇ うっかり
◇ 正直 しやうじき
◇ まじめ
◇ まけずぎらい
◇ たよりになる
◇ のびのび
◇ おとなしい

10

5

◇ めずらしい
◇ 人気 にんき
◇ とくべつ
◇ すばやい
◇ うつくしい
◇ にがい
◇ すっぱい
◇ からは
◇ はつきりした
◇ くわしい

10

5

◇ 細かい こま
◇ ぬるい
◇ ひんやり
◇ まぶしい

ことばをつかったら、
ことばの上にある しるしに、
色をぬろう。



これまでに学んだ
ことばを見る。



きもちをあらわすことば

◇ 気に入る きい
◇ まんぞく
◇ くやしい
◇ ざんねん
◇ 気になる き
◇ わすれられない
◇ うらやましい
◇ きんちょう
◇ はらが立つ た
◇ あきれる

10

5

◇ しあわせ
◇ 気分がいい きぶん
◇ きげんがいい
◇ まよう
◇ すっきり
◇ 力強い ちからづよ
◇ 心強い こころづよ
◇ にがて
◇ きつい
◇ さびしい

10

5

なかまのことばをあつめよう

読んでいる本などから、「じんぶつを
あらわすことば」「もののようすを あ
らわすことば」「きもちをあらわすこと
ば」を、ほかにも見つけてみましょう。
みんなであつめて、「クラスのことば
のたからばこ」を作るのもいいですね。

「スイミー」には、
「すばらしい」という
ことばがあったよ。





図をつかって考えよう

考えをせいりするときに、やく立てましょう。

じゅんじょ

書き出してならべると、じゅんじょを考えやすくなります。

○ふせんに書き出す

町たんけんていった花やさんのこと

いろいろな花がならんでいた。

おみせの人のひなし

「花を見ると、げんきになる。」

ゆりの花が、とくにきれいだった。

つたえたいことを書き出したら、つたえるじゅんじょを考えよう。

○じゅんじょを考えて、ならべる

町たんけんていった花やさんのこと

いろいろな花がならんでいた。

ゆりの花が、とくにきれいだった。

おみせの人のひなし

「花を見ると、げんきになる。」

ふせんに書くと、かんたんにならべかえられるね。

同じところ、ちがうところ

ひょうにすると、同じところとちがうところが、くらべやすくなります。

○くらべるものをえらぶ

ろくがつみついか 六月三日のミニトマト

・みどりいろ

・十こ

・ニセンチ

ろくがつじゅうはちにち 六月十八日のミニトマト

・みどりいろ

・十五こ

・三センチ

同じところと、ちがうところがあるね。

○ひょうにして、くらべる

ミニトマトのかんさつ

ろくがつみついか

ろくがつじゅうはちにち

いろ

かず

おお

大きさ

みどりいろ

十こ

ニセンチ

みどりいろ

十五こ

三センチ

くらべること

ひょうにすると、くらべやすくなるね。ほかの人に つたえるときにも、べんりだね。